

平成24年度

「基礎・基本習得のための実践研究事業」

はばたく群馬の 指導プラン



実践事例集《小学校編》

学習指導案

平成25年3月

群馬県教育委員会

平成24年度

「基礎・基本習得のための実践研究事業」

はばたく群馬の 指導プラン

実践事例集《小学校編》

平成24年度 基礎・基本習得のための実践研究事業

群馬県教育委員会では、「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」や「全国学力・学習状況調査」等の結果を分析し、群馬の子どもたちの「生きる力」を一層高めるために、伸ばしたい資質や能力、基本的な指導法を示した「はばたく群馬の指導プラン」を平成24年3月に作成しました。

本年度、指導プランを活用した授業改善の推進を重点課題の一つとし、指導プランに示した各教科等における伸ばしたい資質・能力や指導のポイント等を、実際の授業を通して県内の先生方に理解していただきたいと考え、本事業を実施しました。

本冊子にまとめた実践は、本事業で提案された公開授業の概要をまとめたものです。各学校の授業改善に生かしていただければ幸いです。

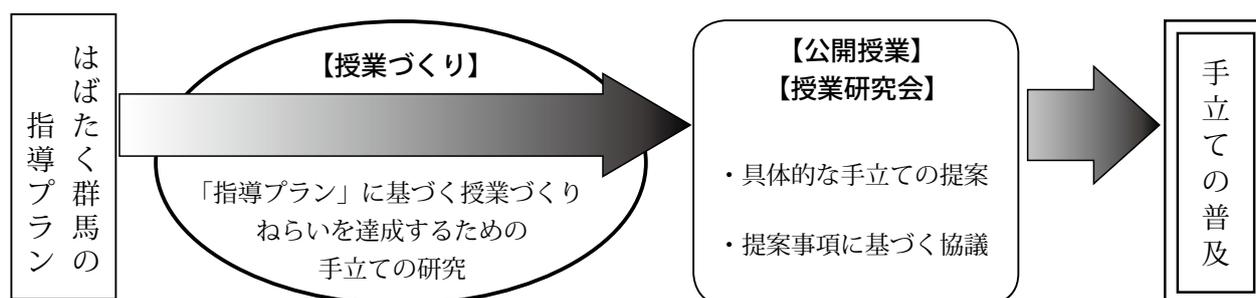
1 目的

「はばたく群馬の指導プラン」に基づく各教科等の授業改善を推進し、児童生徒の基礎・基本の習得に資する。

2 方法及び内容

小学校の優れた実践者に、「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業づくり等を依頼し、公開授業を通して、その手立て(展開例、構想例等)を全県に普及する。

県教育委員会は、実践者とともに、授業づくりに取り組む。



3 学校・実践者及び公開授業期日

教科	学校・授業者	公開授業期日
国語	川場村立川場小学校 桑原敏江 教諭	10月10日(水)
社会	みどり市立大間々北小学校 斎藤好子 教諭	11月19日(月)
算数	中之条町立沢田小学校 佐藤美子 教諭	10月17日(水)
理科	藤岡市立神流小学校 山田真由美 教諭	10月31日(水)
生活	前橋市立勝山小学校 関口智子 教諭	10月26日(金)
音楽	邑楽町立長柄小学校 井戸貴子 教諭	10月30日(火)
図画工作	前橋市立広瀬小学校 天田邦明 教諭	11月16日(金)
家庭	伊勢崎市立広瀬小学校 長沼祐子 教諭	11月13日(火)
体育	富岡市立吉田小学校 中野隆之 教諭	11月2日(金)
道徳	安中市立秋間小学校 佐藤洋子 教諭	11月29日(木)
外国語活動	高崎市立金古小学校 天田由美子 教諭	11月28日(水)
総合	館林市立第九小学校 石川貴子 教諭	11月22日(木)
学級活動	渋川市立渋川北小学校 坂口延弘 教諭	10月30日(火)

4 授業研究会

(1)方法

- ワークショップ形式で、提案事項について協議を行う。
- 1グループ5～6名で、初めにグループごとに協議を進め、次に全体で協議を行う。

(2)授業研究会(ワークショップ)の進め方

<授業前>

- 提案事項と授業研究会の進め方について担当指導主事から説明する。

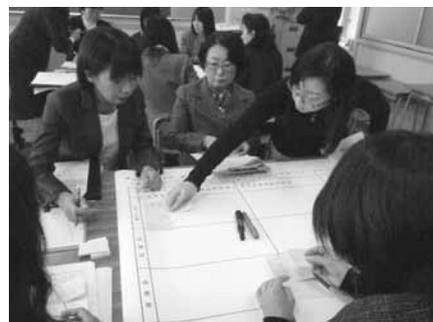
<授業中・授業後>

- 授業を参観する際に、よかった点と改善点・疑問点を、それぞれ青と赤の付箋紙に記入する。



<グループ別の協議>

- 1 提案事項1について、1人ずつ簡単に説明しながら、よかった点(青)と改善点・疑問点(赤)の付箋紙を「まとめのシート」に貼っていく。
- 2 付箋紙に書かれた内容を仲間分けし、小見出しを付けながら、本時の授業について整理する。
- 3 「本時のねらい」の達成に向けて、よかった点と改善点を確認し、まとめていくとともに、改善点に対する改善策を検討し、「まとめのシート」に具体的に記入する。
- 4 提案事項1が終わったら、提案事項2について、同じ手順で進める。
- 5 提案事項1・2以外のものについては、その他として発表し、まとめる。



(グループごとの協議の様子)



<全体協議>

- 1 各班ごとに、協議された内容をふまえ、授業の改善点について発表する。
- 2 発表された内容について協議し、提案事項について深める。



(シートを使ってまとめている様子)



<個人の振り返り>

- 授業及び授業研究会を振り返り、次の2点についてアンケート用紙に記入する。
 - ① 今回の公開授業、授業研究会で一番参考になったこと
 - ② 今後の実践に生かしたいことや、実践への課題



(全体での発表の様子)

↓教科名をクリックすると指導案見られます

目 次

国 語

1～3



川場村立川場小学校
桑原 敏江 教諭

第5学年 『よりよいコミュニケーション
のしかたをみつけよう』

“事例と要旨の関係をとらえる力”を身に付ける授業

社 会

4～6



みどり市立大間々北小学校
斎藤 好子 教諭

第5学年 『自動車をつくる工業』

比較・関連付けて、人々の工夫や努力の意味
を考える授業

算 数

7～9



中之条町立沢田小学校
佐藤 美子 教諭

第2学年 『新しい計算を考えよう』

“乗法の意味の理解”を深める授業

理 科

10～12



藤岡市立神流小学校
山田 真由美 教諭

第5学年 『ふりこのきまり』

“条件を1つだけ変えて結果について考える
力”を身に付ける授業

生 活

13～15

前橋市立勝山小学校
関口 智子 教諭

第2学年 『めざせ！あそびのたつ人』

“繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりする力”を身に付ける授業



音 楽

16～18

邑楽町立長柄小学校
井戸 貴子 教諭

第6学年 『「こころのうた」を伝えよう』

“響きに気を付けながら工夫して歌う力”を身に付ける授業



図画工作

19～21

前橋市立広瀬小学校
天田 邦明 教諭

第1学年 『かたちから うまれたよ』

見立ての活動を通して発想する力を豊かにする授業



家 庭

22～24

伊勢崎市立広瀬小学校
長沼 祐子 教諭

第6学年 『おいしい野菜のために挑戦！』

調理技能の習得に結び付ける授業



↓教科名をクリックすると指導案見られます

目次

体 育

25～27



富岡市立吉田小学校
中野 隆之 教諭

第4学年 『みんなでベースボール』

“投げる動きの技能”を身に付ける授業

道 徳

28～30



安中市立秋間小学校
佐藤 洋子 教諭

第5学年 『栄光を支えた力』

自分の生活を支えてくれる人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする心情を育てる授業

外国語活動

31～33



高崎市立金古小学校
天田 由美子 教諭

第6学年 『行ってみたい国を
紹介し合おう』

交流を通して、“新しいことを知る喜びやコミュニケーションの大切さ”に気付く授業

総合的な学習の時間

34～36



館林市立第九小学校
石川 貴子 教諭

第6学年 『お年寄りから学ぼう』

協同的な学びにより、“課題解決に向けた思考力”を高める授業

学級活動

37～39



渋川市立渋川北小学校
坂口 延弘 教諭

第3学年 『学級や学校の生活づくり』

児童が意見を出し合い、異なる意見に耳を傾け、折り合いをつけて集団決定する話合いの授業

実践事例①【国語】

“事例と要旨の関係をとらえる力”を身に付ける授業

- 単元名 「よりよいコミュニケーションのしかたをみつけよう」
～事例を整理して要旨をとらえ、自分の考えをもつ～（第5学年）
教材文「くり返しのはたらき」「言葉のキャッチボール」「心を見せる言葉」
- 本授業で取り入れた手立て（ページは、「はばたく群馬の指導プラン」関連ページ）

①文章構成の視覚化

- ・問い、要旨、事例というまとまりで色分けをした。
- ・事例の説明と要旨で共通して使われている言葉にサイドラインを引いたり、要旨から関連する事例へ矢印を書き込んだりした。
(伸ばしたい資質・能力「筆者の意図や思考を想定しながら文章構成を把握する」P.6)



②学びを深めるための活動

- ・グループの考えの共通点や相違点について、意見を交流させた。
- ・自分が選んだ説明文について、事例が要旨の根拠や理由になっているかを確認させた。
(「3 意見や考えを深めさせるために」P.77)

3 単元の目標

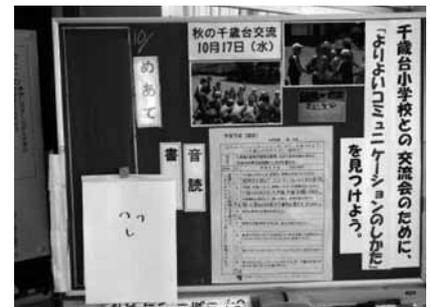
事例を整理しながら要旨を読み取り、よりよいコミュニケーションのしかたについて自分の考えをもつことができる。

4 指導計画（全8時間）（「1単元の作り方」P.76）

過程 (時間)		主な学習活動
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題「千歳台小学校との交流会のために、よりよいコミュニケーションのしかたを見つけよう」や学習計画を知り、学習の見通しをもつ。 ・主教材文「くり返しのはたらき」を読む。 ・「コミュニケーション」をテーマに書かれた教材文の中から興味のあるものを選び並行読書する。
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・主教材文を序論・本論・結論に分ける。本論は、具体的な事例を押さえ、その事例の説明を見付けて、本論Ⅰ（8,9,10）、本論Ⅱ（11,12,13）、本論Ⅲ（14,15,16,17）の3つに分ける。 ・自分で選んだ説明文を3つに分ける。
第2次	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・文章構成と文末表現に着目して、問いとその答え（要旨）を見付け、構成表に文を書き抜く。 ・答えを伝えるために本論で具体的な説明をしていることを確認し、問いと答えの間に事例を一程度で整理してまとめ、構成表を作る。 ・自分が選んだ説明文の問いと答えを見付ける。
	第4時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・構成表から気付くことを挙げ、事例と要旨のつながりや事例の役割について考える。 ・自分が選んだ説明文の事例と要旨のつながりや事例の役割について考える。

教材文を読む目的を明確にする

児童に関係する話題を取り上げ、学習課題解決に対する意欲を高めたり、主体的に文章を読み進めたりできるようにする。



学習の見通しをもたせる

- 学習予定表を配付して、学習の流れを確認し、児童一人一人が学習に対する見通しをもって取り組めるようにする。
- 学習予定表に各時間の学習を振り返る欄を設け、振り返りを確実にできるようにする。

第2次	第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション」をキーワードにして、要旨を一文でまとめ、自分の考えを書く。 ・自分の選んだ説明文の要旨をまとめる。
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・19段落にある筆者からのメッセージを確認する。 ・並行読書した説明文や自分の経験から、交流会で千歳台小の5年生と仲良くなるために役立つコミュニケーションのしかたを見付ける。 ・モデルを示し、葉書程度の大きさのカードに、自分の考えを20字～50字程度でまとめる。
	第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・似ているコミュニケーションのしかたでグループを作り、1枚のポスターにまとめて発表する。 ・発表を聞いた後に、新たな気づきや共感の気持ちなど感想を書き、自分の考えを深める。
第3次	第8時	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた「よりよいコミュニケーションのしかた」が千歳台小学校との交流会でどう役立ったのかを振り返る。 ・交流の場面ごとに役立ったことを発表する。 ・課題解決の過程を確認し、事例と要旨の関係や自分の考えをもつことについて文章でまとめる。

並行読書を行う

○主教材文で学習したことを生かして、取り組める副教材文を用意し、自分が選んだ文章を主体的に読めるようにする。



学んだことを文章でまとめる

○教材文を読むことを通して、学んだことや身に付けた力について文章にまとめさせる。

5 本時の授業と指導のポイント (4/8)

ねらい：構成表を基に事例の役割について話し合う活動を通して、事例と要旨の関係をとらえることができる。

本時の流れ

1 構成表を基に、事例と要旨の関係を考えることを知る。

＜本時のめあて＞
筆者の考え方をとらえるために、事例と要旨の関係を考えよう。

T：今日のめあては、「筆者の考えをとらえるために、事例と要旨の関係を考えよう」です。まず、事例と要旨の関係を考えながら本文を音読してみましょう。

2 事例と要旨のつながりに着目して、事例と要旨の関係を考える。

○構成表を見て、問いと要旨、事例の要点を確認した。

T：ノートにある構成表を見てください。この構成表にある事例の部分青、要旨の部分赤で囲んでみましょう。

T：事例と要旨の関係を予想できる人はいますか。

○事例と要旨に共通する言葉を見付け、つながりを確認した。

T：囲ってもらった青い部分と赤い部分で、何か気付いたことはありますか。共通して出てくる言葉はありますか。

T：「確実」という言葉が事例の中に出てきます。他にはどこに出てきますか。

S：ここにあります。(黒板に拡大してある教材文を指して)

T：他に共通して出てくる言葉はありますか。

S：「確認」があります。

T：同じような意味の言葉「確認」はどこにありますか。

S：「確認」という言葉は、構成表の③と④にあります。

視覚化して関係をとらえさせる

○文章のまとまりごとに色を分けて囲み、まとまりをとらえやすくする。

○共通する言葉にサイドラインを引かせたり、共通する言葉を線で結ばせたりする。

○問い、要旨、事例など文章のまとまり同士の関係が分かるように矢印で結ばせる。




- 「事例の役割」について個人で考えさせ、ノートに書かせた。
T：事例には、どんな役割があるのでしょうか。ノートに書いてみましょう。
T：難しい人は、このキーワードや文型を使って、考えてみてください。(シートにまとめて提示)

- ・キーワード：筆者、要旨、事例、根拠、理由
- ・文型：筆者は要旨を伝えるために（ ）している。
事例には、（ ）という役割がある。

3 事例と要旨の関係について考えたことを交流する。

- グループで事例と要旨の関係をまとめさせ、学級で確認した。
T：グループになって自分の考えを発表してください。
<2班>
S：要旨を伝えるために事例を出しているのだと思う。
S：例の説明をしている。話すときだけでなく、文でも説明の部分が表れていて、それが事例の役割なんじゃないかな。
S：わたしも要旨の詳しい説明だと思う。要旨を分かりやすく伝える役割があるんじゃないかな。
：
<2班のまとめ>「要旨を分かりやすくする役割がある。」
- 各グループでまとめたものを発表させた。
T：各班の考えは同じですか。言葉は違いますが、意味はどうですか。
S：意味は、似ていて同じだと思う。
T：文や言葉は違うけど、文全体の意味は同じものがあるね。
- 自分が選んだ説明文について、事例と要旨の関係を確認した。
T：自分が選んだ説明文でも、事例が根拠になっているだろうか。選んだ説明文を読んで、確認してみましょう。
S：同じように要旨を分かりやすく伝えるために、事例が入っていて事例と要旨がつながっています。
T：確認できましたか。筆者は、要旨を分かりやすく伝えるために事例で根拠を示しています。

4 本時の学習を振り返る。

- 学習予定表の振り返り欄を記入させた。
T：本時の学習を振り返って、学んだこと、発見したことなどを学習予定表の振り返り欄にまとめましょう。

意見を出し合い考えをまとめる

- ホワイトボードを使って、意見を出し合い、グループの意見を推敲しながらまとめられるようにする。
- ホワイトボードを使用することで、全体の発表の際、発表内容を目で見えて確認した上で、他のグループとの相違点等を発表させたり、同じ内容同士でグルーピングさせたりする。



学習で身に付けた力を生かす

- 本時の学習を通して学んだことを生かして、副教材文ではどうなっているか確認させる。
- 本時の授業を通して学んだことを説明文を読む際の視点としてまとめ、他の文章を読んでもみることを促す。



6 授業研究会の参加者からの感想

- 単元を貫く言語活動を設定されていたことがとても参考になりました。「目的をもって読む」ことは、近年重視されているところなので、意欲的な取組だと感じました。
- 本授業における提案事項が明確で、今後の実践で話し合い（交流のさせ方）、並行読書、視覚化等取り入れていきたいと思えます。
- 自分の考えをもつということが、どの子にもできるような支援は難しいので、交流の視点を明確にすること、個の学びの保障等が課題となる。
- 一人一人が自分の意見や考えをまとめる時間を保障することが、話し合い活動のためにとても大切だと分かりました。気を付けたいと思えます。

実践事例②【社会】

比較・関連付けて、人々の工夫や努力の意味を考える授業

1 単元名 わたしたちの生活と工業生産「自動車をつくる工業」（第5学年）

2 本授業で取り入れた手立て（ページは、「指導プラン」関連ページ）

①発見した工夫や努力を分類・整理する工夫

- 一人一人が発見した工夫や努力をKJ法を用いて分類、整理する。
- 組立工場と関連工場の分類結果の違いから、関連工場の工夫や努力の特徴を見つける。
（「授業充実のためのコツやアイデア」P.81）

②比較・関連付けさせるための教師の意図的な発問の工夫

- 「従業員の意識を高める」ために行っている工夫や努力の意味を一つ一つ考える。
- 調べた事実を関連付けさせるために「何か」「なぜ」「どちらが」「どうなるか」といった発問を多く用いる。（「1単位時間の授業のつくり方」P.78）



3 単元の目標

地域にある自動車工場を見学したり、資料を活用して調べたりする活動を通して、自動車工場の仕事に従事している人々の工夫や努力の意味を考え、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて理解できる。

4 指導計画（全16時間）（「1単元のつくり方」P.79）

過程（時間）	主な学習活動	
つかむ	第1時～第3時 大課題 日本の自動車の人気の秘密は何だろうか ・課題の答えの予想を基に、調べる内容を明確にして、追究計画を立てる。	提示資料から 児童が学習課題を見いだす ○写真や実物、グラフ等の資料を提示し、児童の気付きや疑問をより多く引き出しながら学習課題を設定する。
	第4時～第11時（本時） 小課題① 人気のある日本の自動車はどのようにつくられているのだろうか ・組立工場のホームページで自動車製造の過程を調べ、見学の計画を立てる。 ・組立工場を見学する。 ・組立工場見学で発見した内容をKJ法で分類し、小課題①について、自分の考えをまとめる。	見学の計画を立てる ○ホームページや関係資料を活用し、見学先について調べた上で、見学の視点や質問項目を考えていく。 ○今までに行った社会科見学での経験を生かしながら、見学の視点を考える。
追究する	小課題② 関連工場は、選ばれる部品をつくるためにどのような工夫をしているのだろうか ・組立工場の見学をもとに、関連工場の見学計画を立てる。 ・関連工場を見学する。 ・関連工場見学で発見した内容をKJ法で分類し、小課題②について、自分の考えをまとめる。	集めた情報を分類・整理する ○KJ法を用いて、児童一人一人が集めた情報を分類・整理する。 ○分類したまとまりに名前をつけ、調べた事象についての特徴をまとめる。

まとめ	第12時 ～ 第16時	<ul style="list-style-type: none"> 販売店員から話を聞く（消費者のニーズ、新しい自動車の開発、輸送など） 小課題①、②をもとに、大課題に対する自分の考えをまとめる。
-----	-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**単元を振り返り
自分の考えをまとめる**

○「感想」のみでなく、課題に対して分かったことを、根拠や解釈を含めて自分の言葉や図、表でまとめる。

5 本時の授業と指導のポイント（11 / 16）

ねらい：自動車関連工場見学で発見した個々の工夫や努力について比較・関連付けながらその意味を考えることにより、優れた製品を生産するためには、従業員の意識が重要であることに気付くことができる。

本 時 の 流 れ

1 本時の課題を把握する。

＜ 課 題 ＞

ミツバ工場で見学した工夫を仲間分けし、ミツバ工場の部品が選ばれる理由を考えよう。

T：ミツバ工場にはすごいスローガンがあったよね。見学で見学した工夫を仲間分けすると、ミツバ工場が選ばれる訳が見つかるかもしれません。

2 班ごとに、関連工場見学で見学した工夫の仲間分けを行う。

(1) **分類・整理の方法を説明する**

T：組立工場の仲間分けはどのように行ったのかな。
S：品質、効率、安い、環境、働く人の安全
T：組立工場の仲間分けと同じように分けましょう。5つの仲間に入らないものは、「その他」としてまとめましょう。
T：「その他」に入る工夫が、選ばれる秘密になっているかもしれないよ。

(2) **分類・整理を行う**

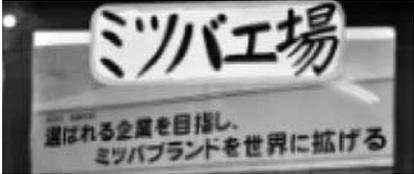
○3～4人の班に分かれて活動する。
S：倒立君は「効率」だね。
T：どうしてこのグループに入れたの。
S：倒立君は、部品を早く正確に持てるようにするための工夫だから「効率」だと思います。
※倒立君：倒れているネジを自然に立たせる従業員が考えた装置

(3) **各班の仲間分けの結果を、全体で共有する**

○代表の班が黒板に掲示し、説明する。
○黒板に出されていない工夫について他の班が追加する。

課題を意識させるために

○掲示物を工夫し、児童の興味・関心を高める。



分類・整理する際の視点

○今までの学習で行った分類・整理の方法を参考にさせる。
○KJ法は、複数回経験を積むことで、手際よく的確に行うことができるようになる。

工夫や努力の意味を考えさせるために

○仲間分けする際は、なぜそのグループに入るのか理由を説明させる。
○3～4人の少人数にすることで、一人一人が説明する機会を設けることができる。

3 組立工場で分けた仲間と「その他」を関連付けさせる。

(1) 「その他」に名前を付ける

- 「その他」の個々の工夫の共通点を見つけ、名前をつける。
T：「その他」に注目しよう。この中の工夫に共通点はないかな。
S1：目標やスローガンがあるよ。
S2：「心がけシリーズ」はどうかな。
T：誰が心がけることなのかな。
S3：働いている人だから、「働く人の心がけシリーズ」がいいと思います。

(2) 「その他」の個々の工夫の意味を考える

- T：なぜ「チャレンジ資格」を壁に貼っておくのかな。
S1：資格を持っている人が分かって嬉しいから。
S2：資格のない人は、資格を取らなくてはと思うから。
T：資格を持っている人が増えとなぜいいの。
S3：資格があるといい製品が作れるから。
S4：資格をとって技術を身につけると、しっかりとした仕事ができるようになるから。
T：一人ではダメなの。
S2：資格を持った人がたくさんいると、安定していい製品が作れると思います。
T：「チャレンジ資格を貼る」ことは、よい「品質」を保ち続けたりさらに良くしたりすることにつながっているんだね。

(3) 「その他」と組立工場で分けた仲間を関連させる

- T：「働く人の心がけ」と「品質」「効率」「安さ」などの仲間は、どんな関係があるのかな。
S1：工場で働いている人たちが、真剣に頑張っているから、よりよいものができるのだと思います。
S2：よい製品をつくったり安くしたりできるのは、しっかりとした心がけを持っているからだだと思います。
T：働く人たちのしっかりとした心がけが、品質や効率を高めたり、価格を安くしたりすることの基になっているんだね。

4 本時の課題について、自分の考えをまとめる。

- T：ミツバ工場の製品が選ばれる理由を書きましょう。

各班の仲間分けを全体で共有するために

- 大きめの付箋紙を使用し、キーワードを記入する
- 代表の班と自分の班の共通内容をチェックさせ、まだ出されていない工夫を見つける。

工夫や努力を関連させる手順

- 「その他」の個々の工夫や努力の共通点を考え名前を付ける。
- 「その他」の個々の工夫や努力の意味を考え、組立工場で分けた仲間（品質、効率、安さ、環境、安全）との関連を考える。



児童のまとめ

ミツバ工場では一人一人の力が一つになり団結して、安い品質、効率的環境が全部まざっている。部品をつくりだすのってめんどいから、ミツバ工場の部品が選ばれている。

社員全員が協して高めていくそうすると、交わりよく、品質がいい部品がつかえる。だから、ミツバ工場の部品は、組み立て工場から選ばれている。

6 授業研究会の参加者からの感想

- 社会科見学で学習してきたことを一人一人にしっかりとらえさせるためには、今回のようなKJ法を用いて、意味を考える授業が有効であると感じました。
- KJ法などの活動は、1度でなく繰り返す行うことが大切だと思いました。日頃の学習訓練が実を結んでいるところが大変良かったです。
- 付箋を活用したKJ法の手法、比較・関連付けながら理解を深めていく活動は参考になりました。
- 「比較・関連付ける」「全体での共有」という言葉を授業でどのように扱っていくのか、実践を見て分かりました。

実践事例③【算数】

“乗法の意味の理解”を深める授業

1 単元名 「新しい計算を考えよう」(第2学年)

2 本授業で取り入れた手立て(ページは、「指導プラン」関連ページ)

①取り上げる場面と順序の工夫

- 乗法の式が1つつくれる場面、式が複数つつくれる場面、式がつかれない場面を取り上げる。
- 取り上げる順序は、
式が1つつくれる場面 → 2つつくれる場面① → 2つつくれる場面②
→ 式がつかれない場面 → 式が複数つつくれる場面 とする。

②活発に説明したり、思考を深めたりするための工夫

- 聞く視点、説明する視点を明確にして、2人組で説明し合わせる。
- 式と根拠を同一児童からだけでなく、他の児童にも説明させる。
- 式のみを発表させ、どの場面の写真のことか他の児童に考えさせ、説明させる。

(「1単位時間の授業の作り方」P.82)

(「授業充実のためのコツやアイデア」P.84)



3 単元の目標

乗法の意味について理解し、5、2、3、4の段を構成したり成り立つ性質を見付けたりするとともに、乗法が用いられる場面を式に表したり式を読み取ったりすることができる。

4 指導計画(全25時間) (「1単元の作り方」P.84)

時間	主な内容	主な学習活動	計画上のポイント
第1～3時	乗法の意味の理解	・場面から数の構成を調べ、乗法の意味を知る。	○身近な生活の場面を取り上げて、指導内容と関連付けながら学習を進めていく。 ○場面と図、式を結び付けながら、説明させる活動を繰り返し設定していく。
第4～9時 (本時第8時)		・場面を乗法の式に表したり、式を基におはじきなどを用いて表したりする。 ・身の回りから乗法になる場面を見付けたり、説明したりする。	
第10～15時	乗法九九の構成と暗唱	・5の段、2の段の九九を構成したり、唱えたりする。	
第16～21時		・3の段、4の段の九九を構成したり、唱えたりする。	
第22～25時	まとめ	・学習を振り返り、まとめる。	

5 本時の授業と指導のポイント (8 / 25)

ねらい：身の回りから乗法で表せる場面を見付け、乗法の式に表したり、なぜその式になるのか説明したりすることを通して、乗法の意味の理解を深める。

本時の流れ

1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しをもつ。

- 校内の幾つかの場面をディスプレイに映し出し、乗法の式に表せるかどうか問い掛けた。

S：教室にあるマジックだ。
S：音楽室にある顔の写真だ。
T：かけ算がありそう？
かけ算が見付けられる？



【学習課題】 かけ算を見付けて、
なぜその式になるのか説明しよう。

2 校内の場面の写真から乗法を探しだし、式とその式になった理由を表す。

- 「1つ分の数」「幾つ分」を表現できるように、場面の写真が入り、式やその理由がまとめられるワークシートを活用した。
- 1つ分を探し、乗法の式に表すことと、なぜその式になったのか理由を書くことを例で示しながら、一人一人に乗法を見付けさせた。

T：かけ算になる写真があるかな？



S：これは、 8×3 だ。 S：これはかけ算になるのかな？

- 乗法が上手に見付けられない児童に対しては、同じ数ずつになっている部分を探すように助言し、乗法を見付けられるようにした。

T：同じ数になっているところはどこかな。探してみよう。

- 乗法の式に表せた児童に対しては、その式になった理由を、図や言葉で書くように促した。

T：どうしてこの式になるの？
説明してみよう。



3 見付けた乗法の式とその式を立てた理由を発表する。



- 自分の言葉で説明する機会を設けるために、まず隣同士で、自分の考えを説明し合わせた。

T：自分の考えた式と同じか違うか気にしながら説明をしたり、聞いたりしましょう。

課題意識を高めるために！

- 扱う場面は、身近な学校生活での場面とする。
- 「1つ分の数」が見付けやすい場面や、「1つ分の数」をいろいろ変えられる場面、乗法の式にならない場面を意図的に用いる。

学習の進め方を理解できるように！

- 学習カードへの記入の仕方を例を挙げて丁寧に説明し、学習の進め方の見通しをもてるようにする。



- 特に低学年では、例を挙げながら説明することが大切。

隣同士で説明し合う工夫！

- 隣同士で説明し合わせる際には、説明する視点、聞く視点を児童にもたせるようにする。

<聞く視点の例>

- ・自分の考えや結果と同じ部分、異なる部分。

<話す視点の例>

- ・なぜそう考えたのかその理由を付け加えながら説明する。



○全体で発表する際には、それぞれの児童が他の児童の考え方を読み取ったり、自分なりに説明したりできるようにした。

T：電話の写真からかけ算が見付けられた人？

S： 3×4 の式になりました。

T：どうして 3×4 の式になるの？説明できる？（クラス全体に問い掛ける。）

S：1つ分がこの3つで、そのまとまりが4つあるから 3×4 と考えたのだと思います。

（立式の理由を他の児童に説明させた。）

S：まだかけ算があると思うけど・・・、 4×3 です。

S：なぜ 4×3 かという、4つ分が3個あるからです。

（4つ分を丸で囲みながら説明。）

T：別の式になっていいの？

S：・・・

T：それぞれの式の1つ分の数は同じになるの？

S：3個と4個で違う。

S：1つ分が違うから式が違うんだ。

○それぞれの場面で、なぜその式になるのか全体に問い掛けたり、説明させたりしながら、1つ分の決め方によって、同じ場面でも異なる式になることを気付かせていった。



取り上げる場面の順序は？

- 取り上げる場面の順序を、
 - ①式が1つつくれる場面
 - ②式が2つつくれる場面
 - ③式がつかれない場面
 - ④式が複数つつくれる場面とし、本時のまとめに結び付けられるようにした。

考えを深めさせる工夫！

- 式とその式になった理由を、同一児童からだけでなく、他の児童にも説明させる。
- 見付けた式を発表させ、どの場面のことか、他の児童に考えさせ、説明させる。
- 式が2つ作れる場合と、1つしか作れない場合の理由を、乗法の式の作り方を基に、考えさせる。



4 学習のまとめをする。

○本時の学習のまとめを、児童から出された言葉でまとめた。

— <まとめ> —

同じものでも、1つ分の数の決め方が違うと、式が変わる。

○身の回りにもっとかけ算がありそうか問い掛け、たくさん見付けてみるよう促し、意欲を高めて終わりにした。

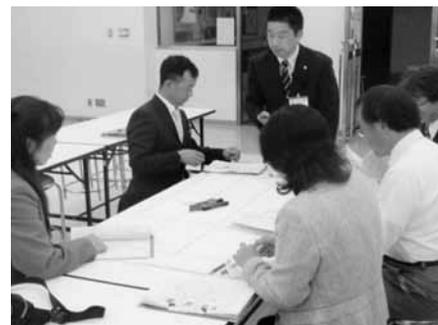
6 授業研究会の参加者及び授業者の振り返り

<参観者>

- 指導案形式が分かりやすく、板書計画が参考になり、指導者の意図が伝わる授業でした。先生が常に問い掛けて、子どもたちを待とうとする姿勢が素晴らしいと思いました。
- 式を発表させ、他の児童にその説明をさせる活動は、とても参考になりました。多くの児童に考える機会を与えられるし、理解が深まるので、明日にでも取り入れたいです。

<授業者>

- 本日の授業研究会で、参加していただいた先生方からたくさんアイデアをもらえました。授業作りを振り返ってみると、教師が説明することで、子どもはすべて分かってくれると考えて、満足していた以前の自分の見方や考え方が変わってきたという実感があります。これからも子どもたちの考えを深められるよう工夫していきたいです。



実践事例④【理科】

“条件を1つだけ変えて結果について考える力”を身に付ける授業

1 単元名 「ふりこのきまり」(第5学年)

2 本授業で取り入れた手立て(ページは、「指導プラン」関連ページ)

①考察の取り上げ方の工夫

- 一人一人の考察内容を把握し、意図的指名によって異なる考察を交流した。

(「1単位時間の授業のつくり方」P.87)

②誤差と変化の違いに気付かせる工夫

- 考察を交流する順序は、おもりの重さを変える実験→振り子の振れ幅を変える実験→振り子の長さを変える実験とした。
- 同じ条件を調べた他の班の実験結果のグラフと比べることでより全体の傾向をつかませたり、異なる条件を調べた実験結果のグラフと比べたりすることにより誤差と変化の違いに気付かせるようにした。

(伸ばしたい資質・能力「条件を1つだけ変えて結果について考える」P.30)



3 単元の目標

振り子の運動の規則性について追究する活動を通して、振り子の運動の規則性について条件を制御して調べる能力を身に付けるとともに、それらについて理解し、振り子の運動の規則性についての見方や考え方をもちつことができる。

4 指導計画(全8時間) (「1単元のつくり方」P.88)

過程(時間)	主な学習活動		
第1次	○振り子のふれ方にはどんなきまりがあるか	<p>体験的な活動から児童が問題を見いだす</p> <p>○「正確な1秒ふりこを作りたい」という願いがもてるように、試しの活動として1秒ふりこを作った。</p> 	
	第1時		<ul style="list-style-type: none"> 1秒間に1往復する振り子時計を作る。 周期が1秒にならないことに問題を見いだす。 <p>問題：振り子が1往復する時間は、何によって変わるのだろうか</p>
	第2時		<ul style="list-style-type: none"> 第1時の活動や経験を基に振り子が1往復する時間は、何によって変わるのかを予想する。 予想を確かめるための3つの実験計画を立てる。
	第3時		<ul style="list-style-type: none"> 各班で実験計画に従い実験を行う。 <実験1>おもりの重さを変える 実験の結果からグラフを書く。 自分の予想と実験結果を照らし合わせて自分の考察を書く。
	第4時		<ul style="list-style-type: none"> 各班で実験計画に従い実験を行う。 <実験2>振れ幅を変える 実験の結果からグラフを書く。 自分の予想と実験結果を照らし合わせて自分の考察を書く。
		<p>条件に着目し実験の計画を立てる</p> <p>○予想を基に、「調べる条件(かえる条件)」と「そろえる条件」を整理しながら3つの実験の計画を立てる。</p>	
		<p>計画に従って実験を行う</p> <p>○実験の時間を充実するために、自作の実験器具を使ったり、個人の考察の交流を第6時にまとめて行ったりした。</p> <p>○一人一人が実験に主体的に取り組めるよう、1班の人数を3人にした。</p>	

第1次	第5時	<ul style="list-style-type: none"> 各班で実験計画に従い実験を行う。 ＜実験3＞振り子の長さを変える 実験の結果からグラフを書く。 自分の予想と実験結果を照らし合わせて自分の考察を書く。 	<p>結果を考察し、結論を導く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人の考察を意図的指名により交流し、問題解決の問題に対する答え（結論）を見いだす。
	第6時（本時）	<ul style="list-style-type: none"> 実験1～3の個人の考察を交流し、振り子の運動の規則性を見いだす。 	
第2次	○振り子のおもちゃをつくらう		<p>自然や生活にあてはめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本単元で獲得した知識を活用して作った1秒振り子の正確さに児童は改めて驚いていた。 ○理科を学ぶ意義や有用性に気づけるようにする。
	第7時	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを活用して1秒間に1往復する振り子時計を完成し、その精度を競争する。 	
第8時	<ul style="list-style-type: none"> 振り子のきまりを利用した物を生活の中で見つけて、原理を説明したり、まとめたりする。 		

5 本時の授業と指導のポイント（6／8）

ねらい：実験1～3の個人の考察を交流することを通して、振り子が1往復する時間が変わる要因を見いだすことができる。

<p>本時の流れ</p>	<p>本時の見通しをもたせるために</p>
<p><u>1 前時までの学習を振り返り、問題を確認する。</u></p> <p>＜問題＞</p> <p>振り子が1往復する時間は、何によって変わるのだろうか。</p> <p>T：今日は、今までやってきた実験の結果から、この問題の答え（結論）をみんなで考えていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の問題は、数時間を貫くため、毎時間確認する。 ○ねらいによって、本時は問題解決のどの過程の学習かを児童が意識できるようにする。
<p><u>2 3つの実験を振り返り、自分の予想と実験結果を照らし合わせて考えた考察を振り返る。</u></p> <p>○ノートに書かれた実験の結果を示すグラフと自分の考察を読ませることで、3つの実験を振り返らせた。</p>	<p>自分の考えを深め、活発な交流にするために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前に一人一人の考察を把握し、異なる考察を意図的指名により取り上げることで、交流に必然性をもたせた。 ○実験の予想や結果で意見が一番分かれた、おもりの重さをかえる実験から検討することで、交流の意欲が高まるようにした。
<p><u>3 個々の考察を発表し、交流する。</u></p> <p>(1) 実験1 おもりの重さをかえる</p> <p>T：実験1の自分の考察を発表してください。</p> <p>S1：僕の予想は、おもりの重さには関係ないです。結果は、おもりの重さは、重いと1往復する時間は長くなりました。だから、おもりの重さを重くすると、1往復する時間は長くなると考えます。</p> <p>T：ちがう考察を考えた人いますか。</p> <p>S2：僕の予想は、おもりの重さを重くすると1往復の時間は短くなるです。結果は、おもりの重さが重いと1往復する時間は短くなりました。だから、おもりの重さを重くすると、1往復する時間は短くなると考えました。</p> <p>T：二人とちがう考察を考えた人いますか。</p> <p>S3：私の予想は、おもりの重さには関係ないです。結果は、おもりの重さを変えても1往復する時間は同じだったので、おもりの重さはふりが1往復する時間を変えないと思います。</p> <p>T：3人は、違う考察ですね。他のみんなはどうですか。</p>	

- 各班の実験結果のグラフを黒板に掲示させながら、多くの児童に考察を発表させた。
- 児童の考察は、S 1～S 3の意見に集約された。発表できなかった児童は、ハンドサインにより自分の考えを表現させた。
T：どれもみんな正しそうだけど、どの考えが正しいのかな。
T：意見が分かれたときに、理科ではどうしたらいいの。
S：理科は実験で確かめるしかないのだから、もう一度、実験をやってみたらよいと思います。
T：もう一度実験をして確かめてみよう。ところでどんな条件で実験をしたらよいですか。また、それぞれの考察が正しいとすると、どんな結果になるはずですか。
- 演示実験の結果から、おもりの重さを変えても、振り子が1往復する時間は、変わらないことをまとめた。
T：ところで、間違った結果の原因は、何だと思う。
S 1：そろえる条件が、そろっていなかったのかな。
S 2：ストップウォッチを押すときに少しずれたのかも。

(2) 実験2 振れ幅を変える

- 実験1と同様に、実験結果を示すグラフと共に、自分の考察を交流しながら、振り子の1往復する時間の要因になっているか、全員で検討する。

(3) 実験3 振り子の長さを変える

- 実験1と同様に、実験結果を示すグラフと共に、自分の考察を交流しながら、振り子の1往復する時間の要因になっているか、全員で検討する。

4 振り子の規則性についてまとめる。

- 問題解決の問題に対する答えとなるように、振り子の規則性についてまとめる。

- 振り子の1往復する時間は振り子の長さで変わり、長くなると時間も長くなる。
- おもりの重さやふれはばでは、変わらない。

- 振り子の規則性を天井からつるした大きな振り子と実験で使った小さな振り子で観察させた。

考察を交流する時の視点

- 考察を検討する時は、科学的な正しさを視点とし検討した。
<科学的な正しさ>
 - ・実験で確かめられる。
 - ・何回やっても、誰がやっても同じ結果になる。
 - ・これらを満たすことによってみんなが納得している。
- 各班の結果を黒板に並べて掲示することにより、再現性を高めたり全体の傾向が分かるようにしたりする。

追加の演示実験のポイント

- 条件を変えると結果がどのように変化するか、見通しをもたせてから演示実験を行うようにする。



異なる条件を調べた実験を比べる

- 異なる条件の実験結果を比べることにより、誤差と変化の要因の違いに気付けるようにする。

実感を伴った理解へ

- 学んだ自然の事物・現象の性質や働き、規則性などが実際の自然の中で成り立っていることに気付けるようにする。

6 授業研究会の参加者からの感想

- 考察の取り上げ方が一番参考になりました。やはり、意図的指名は有効であると感じました。その分、順序、比較等これらをコーディネートする教師の力がとても大切であると思いました。
- 子どもたちのノート指導が徹底していて、とても参考になりました。また、考察の場面でこれだけたくさん児童の考えを引き出したのも、今までの授業の積み重ねの成果なのだと思います。
- 考察だけで1時間の授業というのを初めて参観させていただきました。「科学的な見方や考え方」は、教えごとではなく、育てるものなのだと改めて実感しました。
- 考察の時間を充実するためには、実験から児童がどのような結果を得るか予備実験で確かめること、経験と知識からそれぞれの児童がどのような考察をするか教師が推論しておくことが大切だと思った。

実践事例⑤【生活】

“繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりする力”を身に付ける授業

1 単元名 「めざせ！ あそびのたつ人」(第2学年)

2 本授業で取り入れた手立て (ページは、「指導プラン」関連ページ)

①考えたことを繰り返し試せる環境の構成の工夫

- ・つくる場所のすぐ近くに試す場所を確保し、活動場所に一体感をもたせた。
- ・動く仕組みが同じ児童同士で、作ったおもちゃを見合ったり、考えを伝え合ったりできる空間を設定した。
(伸ばしたい資質・能力「繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりする」P.35 「1単位時間の授業のつくり方」P.90)



②一人一人の児童に対するおもちゃの改良の視点の明確化

- ・一人一人の児童の活動の予想と個々の児童へのねらいに基づき、支援の方法(用具の提示やヒントとなる言葉など)やタイミングについて検討し、準備しておいた。
(「2 気づきの質を高めるために」P.93)

3 単元の目標

身近にある物を使って、動くおもちゃやそれを使った遊びを工夫し、その面白さや不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができる。

4 指導計画 (全20時間) (「1単元のつくり方」P.92)

過程(時間)	主な学習活動		
第1次	○おもちゃを作って、遊びの達人になろう	対象をとらえる	
	第1時 第2時		・試作のおもちゃの動き方を知り、遊ぶ。
	第3時	・どのような物を利用すると動くおもちゃができるのかを試作おもちゃをもとに話し合う。	学習課題をつかむ
	第4時 第5時	・作りたいおもちゃを考え、設計図をかく。 めあて:「あそびのたつ人になって、作ったおもちゃで1年生を楽しませよう」	
	第6時 第7時	・設計図にかいたおもちゃを作る。	具体的な活動や体験をする
	第8時 第9時	・グループの友達とおもちゃの交流をする。	
	第10時(本時) 第11時	・おもちゃや遊び方を改良する。	活動や体験を振り返り、対象をとらえ直す
	第12時 第13時	・クラスの友達と、おもちゃの大交流会をする。	

第2次		○「おもちゃのひろば」であそぼう
	第14時	・「おもちゃのひろば」の計画を立てる。
	第15時 第16時	・「おもちゃのひろば」の準備をする。
	第17時 第18時	・1年生におもちゃや遊びを紹介しながら、一緒に遊ぶ。
	第19時 第20時	・今までの活動を振り返る。

すべての活動を振り返る

- これまでの学習での気づきを想起する機会をつくり、1年生への説明やアドバイスに生かせるようする。
- 自分のよさや頑張ったところ、考えた工夫を自覚できるよう、本単元での活動を個々のミニ紙芝居などにまとめさせる。

5 本時の授業と指導のポイント (10/20)

ねらい：さらに楽しいおもちゃにするための方法を考え、改良することができる。

本時の流れ

1 学習のめあてを知る。

＜めあて＞
もっと楽しくなるように、おもちゃをかいりましょう。

T：改良する前と比べて自分のもっとこうしたいという思いに近づくように、繰り返し試して、工夫しましょう。

2 もっと楽しいおもちゃにするために、どのように改良したらよいか考えたことを試す。

- 設計図や改良点、改良の方法を記入した前時のカードを見ながら、おもちゃの改良を行った。
- カッターナイフやキリなどは、安全面に配慮し、グループごとの製作場所とは別に用意された場所で使用した。
- 改良してみたら、製作した場や試す場で、思ったとおりに改良できているかを試したり、確認してみたりした。
- 改良でうまくいかないときには、友達のおもちゃと比べたり、友達に改良の方法についてのアドバイスをもらったりした。

本時の見通しをもたせるために

- 遊びの達人達成カードで、本時の改良によってどのくらい達人に近づくかを確かめておく。
- 前時に考えた改良点や改良の方法を数名の児童に発表させる。
- 材料の数や大きさ、形など、改良のポイントとなりそうなことを板書する。

考えたことを繰り返し試し、確かめる活動を十分に保障するために

- 作る場所の近くに試す場所を確保し、作る活動と試す活動に一体感をもたせる。
- 同じ仕組みのおもちゃをつくる児童同士で見合ったり、試したり、考えを伝え合ったりできるようなグループを構成する。
- 作ったおもちゃや製作の様子を児童同士で見合えるように、活動場所の空間を設定する。

○友達の様子を見て、一緒に試したり、方法を考えたりした。

S 1 : 先生、風の当たるところがとれちゃうから、ガムテープで貼ってみたんだ。前よりも頑丈になったか試したいんだけど。

T : なるほど。前の時間に●●くんが、「ガムテープがいいよ」って教えてくれたもんね。上手くいくといいね。

いいものを用意しておいたんだけど使ってみる？(コースが作れるように、コーンやスズランテープを持ってくる。)

S 1 : いいねえ、コースみたい。レースもできるね。(教師と一緒に三角コーンやスズランテープを設置した。)

S 1 : (うちわで扇ぎ、風を当てて車を動かす。)動いた、動いた！(風を受けるところは)取れないね。そうだ！(自分の場所に戻って作業を始める。)

S 1 : (コースに戻ってきて、また、試す。)先生、風が当たるところが少し上になったら、まっすぐで速いよ。風がいっぱい当たるんだね。

T : うん。まっすぐ進むようになったね。大発見だ！

S 2 : ほんとだ。まっすぐ進んでる。やってみたいな。

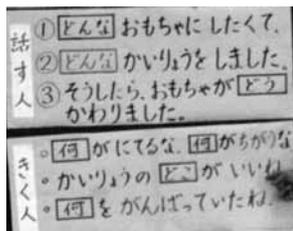


3 おもちゃや遊びの改良したところなど、友達に知らせたいことを「見つけたよカード④」(右欄参照)にまとめる。

T : どこをどのように改良したか、どう変わったか、おもちゃが変わってどう思ったかを振り返りカードにまとめてみてください。

4 まとめたことをもとに、グループの友達に伝えたり、友達の感想を聞いたりする。

○どんなおもちゃにしたいくて、どのような改良をし、おもちゃがどのように変わったかをグループの友達に、言葉や実演により伝えた。

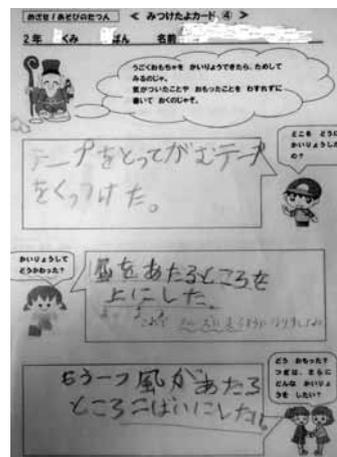


5 次時の予定を聞く。

一人一人の児童に対する支援方法の明確化

- 個々の児童の思いや願い、前時までの取組の様子に基づき、個々の児童に対して、本時の活動でどのようなことに気付いてほしいかを検討しておく。
- 気付きをもたらすための支援を明確にし、材料・用具の種類や提示のタイミング、アドバイス等を考え、準備しておく。

見つけたよカード④



振り返り場面でのポイント

- 振り返りの視点を与え、カードにまとめることで、気付きを可視化するとともに、自覚できるようにする。
- 次の活動への気付きにつながるよう、類似点や相違点を問うたり、改良のよさやがんばったところを認めたりする。

6 授業研究会の参加者からの感想

- 個々の児童の願いや思い、課題の明確化、それらを教師がしっかりと押さえ、課題を達成するために学習環境を整え、的確な支援をするための準備の大切さを学ばせていただきました。
- 作る場と試す場の設定の工夫など、環境の構成の大切さを感じました。自校での授業でもできることに取り組んでいきたいと思えます。
- 個々の児童の思いや願いを丁寧に見取り、自力解決に向けてほどよい支援をしていたところが参考になりました。

実践事例⑥【音楽】

“響きに気を付けながら工夫して歌う力”を身に付ける授業

1 題材名 「こころのうた」を伝えよう（第6学年）

〈教材名〉「おぼろ月夜」「われは海の子」「ふるさと」

2 本授業で取り入れた手立て（ページは、「指導プラン」関連ページ）

①思考・判断し表現する一連の過程を大切にした授業づくり

- ・歌詞内容や曲想を基に、楽譜に書かれた音符や音楽記号を実際にどのように歌唱表現したいかを考え、それをグループ・学級の思いや意図へと高めていった。
- ・表現したい思いや意図の実現状況を確認したり、それを踏まえて、よりよい音楽表現にする工夫を考えたりできるよう、録音・鑑賞を行った。（「1題材のつくり方」P.95）



②表現したい思いや意図を音で実現するために必要な歌唱表現の技能を身に付けさせる工夫

- ・常時活動として「ハーモニー遊び」を行い、音を聴き、声を合わせて歌う力を伸ばすようにした。
- ・表現したい思いや意図が実際の音楽表現につながるよう、音楽活動の時間を十分に取し、教師が一刻一刻の児童の様子を見取りながら、適時、技能習得を図った。（「思いや意図を生かした音楽表現」P.95）

3 題材の目標

歌詞の内容や感じ取った曲想を生かして表現を工夫し、思いや意図をもって歌うことができる。

4 指導計画（全7時間）（「1題材のつくり方」P.95）

※音楽的な感受の学習を基に、思考・判断し表現する一連の過程を大切にした授業づくり

過程 (時間)	主な学習活動	
第1次 (第1～2時)	○「おぼろ月夜」の歌詞内容や曲想を生かし、表現を工夫して歌う。	
第2次 (第3～4時)	○「われは海の子」の旋律の音の動きやリズムの特徴を感じ取り、表現を工夫して歌う。	
第3次	○「ふるさと」の曲想にふさわしい表現を工夫し、重なり合う声の響きを感じながら三部合唱する。	
	第5時	・範唱を聴いたり、歌詞を朗読したりして情景を思い浮かべ、楽曲の特徴を感じ取って、主旋律を歌う。 ・副次的な旋律を覚えて三部合唱する。 ・学級全体で1・2段目の音楽表現を工夫する。
	第6時	・グループで3段目の音楽表現を工夫し、発表し合う。 ・グループで4段目の音楽表現を工夫する。
	第7時 (本時)	・4段目の工夫した音楽表現を発表し合う。 ・重なり合う声の響きを感じながら、曲想を生かして、学級全体で三部合唱する。

「音楽的な感受」の学習

- ①楽曲全体の雰囲気を感じ取る。
- ②そのような雰囲気を醸し出す理由を、音楽の要素に着目して探る。

思考・判断・表現

- ①自分の表現したい思いや意図に合う演奏になるよう、表現を工夫する。
- ②どのように表現を工夫したか意見交流する。
(思いや意図を生かした音楽表現)
- ③工夫した表現で演奏できるよう、表現の技能を高める。
- ④学習したことを生かして演奏する。

5 本時の授業と指導のポイント (7/7)

ねらい：歌詞の内容や感じ取った曲想を生かして、重なり合う響きの美しさを感じながら「ふるさと」を三部合唱することができる。

本時の流れ

1 音楽学習に臨む楽しい雰囲気をつくる。

○体ほぐしやハーモニー遊びをする。【常時活動の工夫】

◆体ほぐしの歌

歌に合わせて首や肩を回した。

♪首を回そう、リラックス～

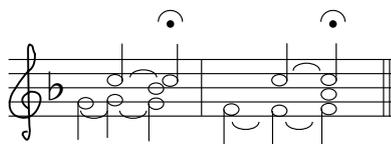
肩を回そう、リラックス～

伸びをしちゃおう、リラックス～♪



◆ハーモニー遊び

クラス全体でハーモニーをつくる「ハーモニー遊び」を取り入れ、意図的に、「ふるさと」の三部の部分の和音を取り出して遊んだ。



2 本時のねらいをつかむ。

○黒板には前時までの音楽表現の工夫を記した拡大譜を掲示した。

3 「ふるさと」の4段目を、工夫した音楽表現で演奏できるよう、グループ活動を行う。

○前時に考えた歌い方が実際の音楽表現につながるよう、歌唱表現の技能を身に付ける。

◆2グループに分かれて活動する。

S1 「出だしの『わ』のハーモニーをきれいに響かせたいけど、うまくいかないね。」

T 「この和音を響かせるには、さっきのハーモニー遊びの感じでやってみましょう。」
(技能指導をする。)



S2 「最後の『ふるさと』は、やさしい感じが出るように、やわらかい声で歌おうよ。」

T 「こういう風に声を出すと、もっとやわらかい声になりますよ。やってみましょう。」
(一人一人の声を聴いて個別指導する。)

◆工夫した音楽表現で、どのように演奏できるようになったか、グループごとに発表をする。

S1 「ここはデクレッシェンドが付いているので、山を下りていくように歌います。」



S2 「やさしい感じを出したいので、やわらかい声で歌います。」

表現したい思いや意図を音で実現するのに必要な技能の習得

【教師の適時指導】

○子どもたちが思いや意図を音で実現できるよう、グループ活動の様子を見ながら技能習得の必要な部分を判断して取り出し、適切な指導をする。

「音楽表現の創意工夫」の評価

【評価規準】

「ふるさと」の主な旋律や副次的な旋律、和声の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら声を合わせて歌う表現を工夫しどのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている

【評価方法】

○グループ活動での発言内容、楽譜を記した学習カードの記述内容、演奏の聴取から評価した。(前時からの継続)

【実際の評価】

○具体的には、「め～ぐ～り～て」の◀▶は、『山を登って下りるように』、pは『小さく深く聴き取りやすく』、最後の『と』は『とてもいねいに、消えるように伸ばす』など、「こう歌いたい」という自分なりのイメージをもっている児童を「十分満足できる状況」と判断した。

4 学級としての思いや意図を生かした三部合唱をつくる。

○グループ発表の共通点等から、学級としての歌い方を決め、学級全体で響きのある三部合唱ができるよう練習する。

T「では、皆さんの表現したい思いが音楽に現れているか、録音して聴いてみましょう。」

S 1「やさしい感じを出したいのに、みんなの声がそろってなくて、ざわざわした感じになってしまっています。」

S 2「三部のハーモニーがそろいません。」

T「こんな声で歌ってごらん下さい。(範唱)
(技能指導をする。)



5 今までの学習を生かして、重なり合う響きの美しさを感じながら三部合唱する。

S 2「きれいな響きで合唱できました。」

S 2「やさしい感じが出せるようになったと思います。」

T「声の重なり合いの美しさを感じながら、三部合唱できるようにしましたね。」

学習カードの工夫

- 学習カードの1ページ目にはフレーズ（旋律線の動き）、大切な言葉、強弱、リズム、合唱形態などの音楽の構造を一目でわかりやすく示せる表をつくり、記入させた。これが、楽曲全体の表現を工夫する際の拠り所となる。
- 2ページ目には、楽曲全体の感じやどんなふうに歌いたいかを書いたり、各段ごとの表現したい思いや意図とその理由を書いたりできるようにした。児童はこれを基に意見交流をし、よりよい表現に高めていった。

◆実際の学習カード（A男の例）

「ふるさと」

三、高をまたして
山の目にか
山は青き
水は清き
ふるさと

二、いかにいます
つつがなしや
雨に風に
思いする
ふるさと

一、うさぎ道いし
小ぶなつりし
夢は今も
高れがたき
ふるさと

1 うさぎを追いかけたあの山
小ぶなを釣ったあの川
思ひ出が今も心の平を駆けめぐって
忘れぬことのできないあのふるさと

2 お父さん、お母さんは
どうしているだろうか
実家は元気でいるだろうか
寒が舞っても風が吹いても
忘れることのできないあのふるさと

3 自分の夢をかたえて
いつの日にか ふるさとへ帰ろう
山は青きで水は清きふるさと
川の水は澄やかなあのふるさと

和の音：あの山、あの川、あの川、流れがたき、流れあらない
いかにいます、どうしていらっしやるだろうか
つつがなしや、寒風がどうか、実家は、実家、思いする、思い出す

	1段目	2段目	3段目	4段目
(フレーズ) 主旋律の動き				
大切な言葉				ふるさと
強弱	mf	mf	mf	mf
リズム	同じ	同じ	同じ	同じ
○部合唱	二部合唱	二部合唱	二部合唱	三部合唱

波のように歌えよう

ゆるやかに歌えよう

流れるように

モコモコ流れるように

流れるが

♪歌声の重なり合う響きの美しさを感じながら合唱しよう

①「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

②「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

③「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

④「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑤「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑥「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑦「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑧「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑨「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑩「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑪「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑫「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑬「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑭「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑮「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑯「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑰「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑱「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑲「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

⑳「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉑「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉒「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉓「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉔「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉕「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉖「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉗「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉘「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉙「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉚「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉛「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉜「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉝「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉞「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㉟「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊱「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊲「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊳「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊴「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊵「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊶「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊷「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊸「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊹「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊺「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊻「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊼「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊽「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊾「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

㊿「ふるさと」は
「ゆるやかに歌えよう」感じず。
「流れるように」歌いたいです。
だから

P 1

P 2

6 授業研究会の参加者からの感想

- 「はばたく群馬の指導プラン」に基づいた実際の授業の流れを見せていただくことができ、考えさせる場面や表現させる場面の設定の仕方がわかりました。
- 日常の何気ない音楽活動で子どもたちに音楽の力を付けさせていくことのできるの、常時活動（ハーモニー遊びなど）が大切だと思いました。
- グループ・学級の思いや意図を表現する一連の流れがわかりやすく、まねして授業をしてみたいと思いました。楽譜の提示の仕方、練習の方法、授業のまとめ方が参考になりました。

実践事例⑦【図画工作】

見立ての活動を通して発想する力を豊かにする授業

1 題材名 「かたちから うまれたよ」 ～ふしぎな生きものを見つけよう～（第1学年）

2 本授業で取り入れた手立て（ページは、「指導プラン」関連ページ）

①発想を豊かにする課題提示の工夫

- ・「見立ての活動」の流れを工夫する。
紙の形を生き物に見立てる→いろいろな形の紙の中から、指定した生き物を見付ける
- ・紙の形を生き物に見立てるに当たっては、紙の動かし方や紙の見せ方の順序を工夫する。
少しずつ回していく→逆さにする→裏返しにする など
（「広げる過程 試しの活動を行う～自分なりのイメージを広げる」 P.100）

②発想を促すための材料と材料を生かすための場の工夫

- ・凹凸感のある紙、繊維が見える紙など、材質の違いにより、見た目や感触、破れ方が異なるいろいろな紙を用いる。
- ・材料を広げ自由な発想ができるように、広いスペースの環境を設定する。
（「思いや願いをふくらませるために～材料体験を大切に～」 P.101）

3 題材の目標

切ったりちぎったりしてできた形の紙の置き方や組合せ方を工夫しながら、「いたらいいな」と思う不思議な生き物を思い付き、表すことができる。

4 指導計画（全5時間）（「1題材の作り方」 P.99）

過程 (時間)		主な学習活動	
出会う	第1時	・多様な紙に触れ、ちぎったり破いたり、はさみで切ったりする。	材料に触れる ○切ったりちぎったりする実際の活動を通して、材料の特徴に関心をもたせる。
	第2時 (本時)	・いろいろな形の紙を置いたり組み合わせたりすることで、不思議な生き物を考える。	
広げる・つくる	第3時 ～ 第4時	・見立てた形に、クレヨンなどで模様を描いたり、紙を貼ったりして、不思議な生き物をつくる。	発想・構想／製作する ○参考作品の提示の仕方を工夫する。 ○試行錯誤する時間と場を保障する。 ○友達と表現のよさや工夫を共有する場を設定していく。
	第5時	・不思議な生き物について友達と話し合う。	
振り返る			鑑賞・振り返る ○〔共通事項〕を基に、自分の作品を友達に紹介する。

5 本時の授業と指導のポイント (2/5)

ねらい：切ったりちぎったりしてできた形の紙の置き方や組合せ方を考えて、不思議な生き物を思い付くことができる。

本時の流れ

1 前時の活動を振り返り、本時の課題をつかむ。

○前時に扱ったいろいろな種類の紙の特徴を振り返り、実際に新たな種類の紙をちぎらせた。

T：ちぎってみてください。

S：すべすべだね。

S：明るい色だね。

S：固くてうまく切れないなあ。



2 教師が提示する紙の形を見て、何に見えるか考える。

○ちぎって作った同じ形の紙を2枚用意して、向きを変えて提示し、何に見えるか考えさせた。見え方の違いが比べられるようにホワイトボードに並べて提示した。

T：何に見えるかな？

S：うさぎ。あひる。かお。

S：たこ。ロケット。

3 いろいろな形の紙から、指定した生き物を見付ける。

○教師が用意した様々な形の紙を床に広げ、みんなで何に見えるか考えた後、「さかな」に見える形を見付けさせた。

T：何に見えるかな？

S：くじら。ほうちょう。

T：さかなを見つけてね。

S：これ、さかなに見えるよ！

○児童を自分のスペースに戻して、一人一人が持っているいろいろな形の紙の中から、さかなを見付けさせた。見付けられた児童には、さかな以外のものを見付けさせていった。

T：自分の場所でやること。紙は切らないでね。



4 いろいろな形の紙を、置き方を変えたり組み合わせたりして、不思議な生き物を考える。

○教師が提示する紙の複雑な形から、不思議な生き物をイメージさせた。

T：何に見えるかな？これは3本の角があるカブトムシです。

○本時のめあてを提示した。

【めあて】 ふしぎな生き物を見付けよう

○自由な発想を可能にするために、実際に存在せず、自分で考えた生き物でよいことを確認した。

T：皆さんが作っておいたいろいろな形の紙を使って、不思議な生き物を見付けましょう。

S：たくさん見付けていいですか？

S：紙を全部使っていいですか？



材料に対する意識を高めるために

○使い慣れている紙の他に、見た目や感触、破れ方の特徴が違う多様な紙（材料）に触れさせる。

○触れる、切る、ちぎる、破く、見るなど手の感覚を十分働かせて形や色を捉えさせる。

「見立ての活動」の流れを工夫する

○「紙の形を生き物に見立てる」→「様々な形の紙の中から、指定した生き物を見付ける」順序で、活動に取り組みせる。

○紙の形を生き物に見立てるに当たっては、紙の動かし方や紙の見せ方の順序を工夫する。

〈例〉 少しずつ回していく→逆さにする→裏返しにするなど



○できるだけたくさん見付けさせることを意識させる。

○形から見付けることを主としているので、自分の思う形に紙を切らないことを確認する。

材料を生かすための場の工夫

○一人でじっくり考える場を確保するために、床の広いスペースをテープで区切り、子どもたち一人一人の場所を指定しておく。

○紙の形の向きや組合せを何度も試し、十分考えることができる時間を確保する。



S：先生、これなんだと思う？

S：見て見て。

○イメージが浮かばない児童に対しては、教師が、いろいろな置き方や組合せ方を演示しながら、考えさせた。

T：おもしろい形になりましたね。何に見えるかな？

○声がけにより、個々の追求の課題やつまづきを明確にしていた。



○一人で作ったり考えたりすることを主としたが、自然にお隣同士の交流も生まれていった。

5 本時のまとめをする。

○一生懸命取り組んでいた児童の作品のよい点を発表させた。

○本時の学習は、紙の形からいろいろなものを見付ける楽しさを味わえたことを、教師の言葉でまとめた。

○次時は、見立てた形に、クレヨンなどで模様を描いたり、紙を貼ったりして、不思議な生き物をつくっていくことを伝え、意欲を高めた。

○紙（材料）は全て自分の袋に大切にしまわせ終わりにした。

個別指導の充実のポイント

○全体を見て、個々の活動状況を把握する。

○重点的に指導する児童を決める。

○必要に応じて、個々への声掛けを行う。

・よい点を具体的に取り上げてほめる など

全体で共有する

○表現の工夫や思いが十分表現できている児童の作品や活動を取り上げて、全体で紹介する。

○自分なりに見立てた理由を発表させる。



6 授業研究会の参加者からの感想

○授業の途中で投げかける教師の言葉がけが重要だと思いました。向き合う子どもたちの実態に応じて、発想を促すための言葉がけのタイミングを大切にしていきたいです。

○子どもたち一人一人が伸び伸び活動するためのスペースの確保や作業時間の確保など、様々な工夫が見られとても参考になりました。

○子どもたちが発想する具体的な姿（紙を回す、振る、かぶる、折る、伸ばすなど）を見る貴重な機会になりました。今後も発想や構想に視点をあてた授業を公開してもらいたいです。

○発想を広げるといことはとても難しいテーマです。子どもたちが更に意欲的に取り組める題材を考えていきたいです。



実践事例⑧【家庭】

調理技能の習得に結び付ける授業

1 題材名 「おいしい野菜のために挑戦！」(第6学年)

2 本授業で取り入れた手立て(ページは、「指導プラン」関連ページ)

- ①クラスを半分に分け、一人一人に調理の機会を保障した調理実習
 - ・1班2名で、一人ずつ交替で調理を行い、「野菜いため」の一連の調理の流れを一人一人が実習した。
 - (「一人一人の技能習得のために 調理実習班を少人数で」P.110)
- ②「おいしくいためるポイント」を観点とする相互評価場面の設定
 - ・評価の観点は、試しの調理(第2,3時)を通して、子どもたちが調べた「おいしくいためるポイント」とした。
 - (「いためる調理ができる」指導プランP.55)



3 題材の目標

包丁やフライパンを適切に使って野菜いためを作る学習を通して、いためる調理の特性を理解し、材料や目的に応じた切り方、いため方の技能を身に付け、日常生活で生かそうとする。

4 指導計画(全7時間) (「1題材の作り方」P.109)

過程(時間)	主な学習活動	
見 つ め る ・ つ か む	第1時 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜(生・ゆでた・いためたキャベツ)を食べ比べ、気付いたことを話し合い、題材の課題をつかむ。  <p>おいしくいためるポイントを見つけて、おいしい三色野菜いためを作ろう。</p>	題材を貫く課題を把握する <ul style="list-style-type: none"> ○課題把握につながるような実践的・体験的な活動を設定する。本題材では3種類のキャベツを比べる活動を行った。 *事前に各自の生活を調べさせたり、アンケートをとったりして、その結果を基に課題をつかませるのでもよい。
	家庭 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの家庭において、「おいしくいためるポイント」をインタビューしてくる。 	各自の生活からスタートさせる <ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活と結び付けた学習を展開できるように、導入段階で家庭とつなげる工夫をする。
追 究 す る	第2時 第3時 <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしてきた各家庭の工夫を発表する。 ・家庭の工夫に基づき、試しの調理を行い、「おいしくいためるポイント」を調べる。 	課題解決に必要な知識や技能を習得する <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に必要な知識や技能を明確にし、それが習得できる実践的・体験的な活動を設定する。
	第4時 <ul style="list-style-type: none"> ・三色の野菜(にんじん・ピーマン・キャベツ)を使い、「おいしい野菜いため」の調理計画を立てる。 ・一人調理をするための手順を考え、工夫して計画を立てる。 <p>*一人調理に向けて、家庭で三色野菜いためを作ってみる。</p>	課題解決のための実践計画を作成する <ul style="list-style-type: none"> ○より具体的な計画になるよう工夫する。本題材では、調理室で調理用具を用いて、実際の動きを確認させた。

追究する	第5時 第6時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、各自が「おいしい三色野菜いため」を作る。 ＊2時間予定であるが、公開授業ではねらいに関わる部分を中心に提示する。 	<p>実践（実習）する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の技能を見とれるような工夫も必要である。本題材では、一連の調理の流れを全員に一人ずつ実習させ、相互評価も取り入れた。
	第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を振り返り、よくできた点、改善したい点をまとめる。 ・家族のための「オリジナル野菜いため」の調理計画を立てる。 	<p>実践（実習）をまとめたり、振り返ったりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○終末段階では家庭における実践計画を立てさせるなど、家庭での実践につなげていくようにする。
まとめる・生かす	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のために「オリジナル野菜いため」を作る。 ・実践したことを実践記録としてまとめ、朝の会などで報告する。 	
<p><題材を通して></p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理技能の定着を図るために、題材を通して、家庭での包丁を用いた手伝いを繰り返し行うように、「包丁名人になろう！」の実践を促す。 ○保護者に向けて、学級通信で授業の様子を知らせるとともに、家庭実践について説明することで、家庭の理解や協力を得られるようにする。また、家庭実践の成果とお礼も伝えていく。 			<p>家庭との連携を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭での実践を促したり、通信で知らせたりする。

包丁名人になろう！

6年 ○組 ○番 名前 ○○ ○○

身-目	何を切ったか	感想・でき具合(○○△×)	家族の人の一言一歩
調	にんじん (たんざく切り)	にんじんがみたいので、うまく包丁の使い方に、慣るのに時間がかかった。○	包丁の使い方に、なれてきたね。(母)

5 本時の授業と指導のポイント (5, 6 / 7)

ねらい：材料や目的に応じた切り方、いため方を身に付け、「おいしくいためるポイント」に基づき三色野菜いためを作ることができる。

本時の流れ		1時間の見通しをもたせる
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>切り方、いため方に気を付けて、「おいしい三色野菜いため」を作ろう！</p> <p>T：みんなで見つけた「おいしくいためるポイント」を基に、一人で野菜いためを作りましょう。</p> <p>2 計画表に基づいて、野菜のための調理実習を行う。</p> <p><調理：S1></p> <p>○切る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にんじんの皮をむき、切る(たんざく切り)。 ・ピーマンのへた・種を取り、切る(せん切り)。 ・キャベツの芯を取り、切る(たんざく切り)。 <p>T：野菜が切れたね。にんじんの厚さはどうかな？</p> <p>S1：厚さをそろえるのが難しくて…</p> <p>S2：先生の見本と同じくらい厚さがそろっているから、◎を付けたよ。</p>		<p>○具体的に提示する。</p> 
<p><観察：S2></p> <p>○評価やアドバイスを記入する。</p> <p><相互評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・にんじんのたんざく切り(厚さ、均一さ) ・フライパンの扱い方 ・いためる順序(にんじん→ピーマン→キャベツ) ・火加減(様子を見て調節) ・混ぜ方 ・味付け ・できあがるまでの時間 		<p>ねらいにつながる実践的・体験的な活動にする</p> <p>○活動の形態や扱う教材等を吟味する。本時では、一人一人が十分な活動ができるよう調理の形態を工夫した。</p>

T：次はいためてみましょう。

○いためる

- ・フライパンをよく熱して、油を入れる。
- ・順序に気を付け、固い野菜からいためる。

S 2：にんじん→ピーマン→キャベツの順で、いためられている。火加減の調節はどうか？

S 1：煙が出てきたから、火を弱めて、よくかき混ぜよう。

T：火加減の調節もできて、おいしそうにでき上がりましたね。味はどうか？

○盛り付ける

○試食する

S 1：わたしはおいしいと思うけど…

T：食べた歯ごたえも伝えてね。

S 2：しょっぱさも歯ごたえも丁度よくて、シャキシャキしているよ。

○いため方



3 ペアで交換をして、同様の調理と観察を行う。

T：では、今度は交代して調理をしましょう。

4 友達からの評価を確認し、自己評価を行う。

- ・苦手だったにんじんのたんざく切りもうまくできて、おいしい野菜いためが作れた。
- ・〇〇さんは、この間よりいためる手際がよかった。ぼくももっと上手になれるように、家でまた作りたい。
- ・「おいしくいためるポイント」どおりにできたので、見た目もきれいで味もおいしかった。

一人一人に気付いたことをまとめさせる

- ワークシート等を工夫する。本時では、観察のポイントと評価、気付いたことを記入できるワークシートを準備した。

家庭科ワークシート④「おいしく野菜いために挑戦！」

初めて作った野菜を美味しく作るポイント		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
観察すること	観察のポイント	〇	△	×	◎
包丁の持ち方	しっかり握っている	◎			◎
生野菜の切り方	包丁をこまめに動かして、お肉の繊維に沿って切っている	◎			◎
包丁の動かす方	包丁の刃先で切る	△			△
にんじん	厚さ1cm、幅2〜3cmに大きさをそろえている	△			△
ピーマン	縦半分に切った大きさをそろえている	◎			◎
キャベツ	縦半分に切った大きさをそろえている	◎			◎
いためる	鍋の火加減を調節し、野菜の色がかわって柔らかくなるまで、火の調節を入れる	◎			◎
盛り付け	盛り付けの順番を調節し、野菜の色がかわって柔らかくなるまで、火の調節を入れる	◎			◎

気付いたことの共有

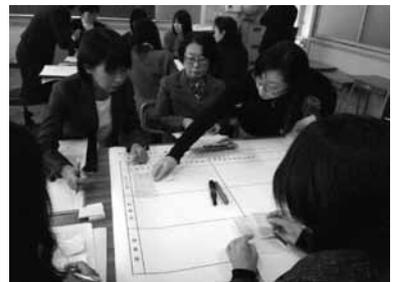
- 友達からの評価を確認した上で自己評価を行う。

本時のまとめ

- 本時では、自己評価を基に、野菜いための一人調理を振り返った。

6 授業研究会の参加者からの感想

- 児童一人一人に対する確実な技能習得、向上のための手立て（少人数の実習、「おいしくいためるポイント」の設定、具体物の提示）など、たくさん学ばせていただきました。
- 少人数指導ができるようやりくりをして調理実習をやってみていと思いました。基本的な技能が身に付くよう、今日の授業を参考に工夫していきたいと思います。
- 「指導プラン」に示されたことを生の授業で見られたことが何より参考になりました。
- 一人調理で野菜いための一通りの作業を行ったことで、どの子も真剣に取り組むことができている。理想的なかたちで評価もでき、子どもに力がつく授業の在り方だと感じました。
- 小学校で一人調理ができることにとても感動しました。教材研究、準備をしっかりと行えば、技能の向上はもちろん評価もしっかりできることがわかりました。



実践事例⑨【体育】

“投げる動きの技能”を身に付ける授業

1 単元名 ゲーム「みんなでベースボール」（第4学年）

2 本授業で取り入れた手立て（ページは、「指導プラン」関連ページ）

①ドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの工夫

- ・個人の技能を習得するためのゲーム、個人やチームとしての戦術的能力（連携した動き）を習得するためのゲーム、児童の能力に合わせてルールを工夫したゲームを取り入れることで、投動作の技能の習得を図った。

（「授業充実のためのコツやアイデア」P.106）

②投動作の技能を習得するための工夫

- ・チーム内で教え合いながら、遠くへ投げる動きを取り入れた練習やゲームを行った。
- ・投げる手と反対の足を一步前に踏み出す動きを意識できるような練習やゲームを取り入れた。さらに、投げる時の体の使い方のポイントや上手に投げることができる児童の動きを手本にしながら、体の使い方を理解させた。

（伸ばしたい資質・能力「投げる手と反対の足を一步前に踏み出して遠くへ投げる」P.50）



3 単元の目標

ベースボール型ゲームのルールを工夫したり、投げ方、捕り方、打ち方などの簡単な技能を身に付けてりして、ゲームが楽しくできる。

4 指導計画（全10時間）（「1単元の作り方」P.103）

過程 (時間)	主な学習活動	
第1次	○ゲームの基本的なルールを知り、ボールを投げる、捕る、打つなどの基本的な動きに慣れる。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げる、捕る、打つなど基本的な動きに慣れる。 ・基本的なゲームのルールについて知る。 <p>課題：投げる動きの技能を身に付けて、ゲームを楽しもう。</p>	
第2次	○基本的な個人の技能を高め、みんなが楽しめるようなルールやチームの練習方法を考える。	
	第2時	・基本的な個人の技能を高めるためのゲームを行う。
	第3時	・ゲームの進め方を知り、全員が楽しめるようなルールや練習等について考える。
	第4時	・チームで練習方法を考えて、協力し合って練習やゲームに取り組む。

試しの活動から
課題を把握する

- 投げ方や打ち方、捕り方などの技能を身に付けるためのゲームのルールを確認する。
- 個人やチームの練習や簡単なゲームを行う。

個人やチームの技能を高めるための練習やゲームを行う

- 個人やチームの技能を高めることができるようにゲームの内容やルールを工夫する。
- チームで取り組みたい練習方法を話し合い、協力して練習を行う。

第3次	○チームの特徴を生かして簡単な作戦を考える。		チームの集団的スキルを高めるための練習を行う ○集団的スキルを高めるために、チームとしての作戦を考えながら練習する場を設定する。 
	第5時	・チームの特徴を生かした簡単な作戦を考えて活動する。	
	第6時	・チームで作戦を考えて、楽しくゲームをする。	
	第7時	・めあてに向けて、協力し合ってゲームをする。	
第4次	○個人やチームのめあてを意識して、練習やゲームをする。		習得したスキルを活用する ○個人やチームで習得したスキルを活用できるようにゲームのルールを工夫する。
	第8時(本時)	・めあてを意識して、チームで工夫した練習やゲームをする。	
	第9時 第10時		

5 本時の授業と指導のポイント (8 / 10) ※下線は本時の重点

ねらい：○投げる手と反対の足を一步前に踏み出して遠くへボールを投げることができる。(技能)

○規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしようしたり、勝敗の結果を受け入れようしたりしている。(関心・意欲・態度)

○ゲームの特徴に合った攻め方を知るとともに、簡単な作戦を立てている。(思考・判断)

本時の流れ	
<ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列、あいさつ ・準備運動 ・ベースランニング(チーム対抗戦) 	
1 <u>前時までの学習を振り返り、課題を確認する。</u>	
<p style="text-align: center;"><課題></p> <p style="text-align: center;">足を上手に使い、ねらったところへ投げることができるようにしよう。</p>	
<p>T：ボールを投げる時に、足を上手に使うって投げよう。</p> <p>T：見本に投げ方を見せてもらいたい人がいるんだけど。</p> <p>T：(一人の児童が投げた後) どんどころがいいかな？</p> <p>S1：左足を踏み出している。</p> <p>S2：体を使ってひねって投げている。</p> <p>S3：左足を投げる方向に踏み出している。…</p>	
2 <u>的当て全力投球ゲームをする。【ドリルゲーム】</u>	
○ボールを投げる時は、投げる手と反対の足をしっかり踏み出して投げることを意識させた。	
T：ボールを投げる時は(全員が右投げのため)左足を出すんだよ。	

本時の見通しをもたせるために

○投げる時の動きのポイントを提示し、練習やゲームの際に常に確認できるようにする。



個人のスキルを高めるために

○腕や足の使い方を意識しながら投げることができるように、個人スキルの習得に特化したゲームを行う。

3 チームごとに打撃・守備練習をする。【タスクゲーム】

- ①遠投キャッチゲーム
- ②打撃ヴィクトリーゲーム
- ③強力打撃アウトゲームからチームで選択して行う。
(ラケットやボールを自由に使えるようにしておく。)

4 ゲームをする。【メインゲーム】

- 全員が打者とセカンドベースからホームベースへ投げる役（アウトにするための役）を交代して行う。
- 安全に行えるように、役割分担を確認させる。
- ピッチャーは打者と同じチーム（次打者）とし、打ちやすいボールを投げさせた。
- 打者が打ち、ボールが返ってくるまでの1つのプレイが終了するごとに、全員で得点の確認をした。
T：今の得点は何点ですか？
S（全員）：○塁まで行けたので
○○点、ボールが壁に当たったので+1点。全部で○○点。

〈メインゲームの得点について〉

- ・ベースを踏んだだけ得点となる（1塁は1点、2塁は2点、3塁は3点、ホームベースは4点）
- ・外野の壁に当たれば+1点。
- ・バスケットのボードに当たれば+2点。

ただし、

- ・フライで捕られると-1点。
- ・天井に当たると-1点。
- ・守備が投げたボールがホームの白板に直接当たると-2点。バウンドして当たると-1点。

チームの特徴を生かした
集団的スキルを高めるために

- チームとしての集団的スキルを高めるためのゲームを複数設定しておき、その中からチームの特徴に応じて選択して練習できるようにしておく。

習得したスキルの活用

- これまでの学習により習得した投げる、捕る、打つための基本的な個人のスキルを活用できるようにゲームを工夫する。
- ゲームのルールを容易にすることで、全員が理解して楽しみながらゲームができるようにする。



5 本時の振り返りをする。

- 全員で集まり、個人や友達のねらいのうち、達成できていたことを伝え合う。
- 友達のよいところを伝えやすい雰囲気をつくる。
T：友達のよいところを発表してくれる人はいますか？
S1：つま先を投げる方向に向けていた。
S2：左足を踏み出していた。



- ボールを投げる時は、投げる手と反対の足を踏み出して投げる。

・整理体操、あいさつ

動きのポイントを押さえる

- 本時のねらいについて自分でできたことや友達の動きのよいところを確認するとともに、ボールを投げる時の動きのポイントを押さえる。

6 授業研究会の参加者からの感想

- ドリルゲームで個人のスキルやベースボール型ゲームにつながる動きの習得をし、タスクゲームで更なるスキルとめあてにせまる動きの習得をした上で、これらのスキルをゲームで生かすという学習の流れが参考になりました。
- 学び合いを充実させるために、児童に友達の動きを見るポイントを示して活動をさせることが参考になりました。
- 投げることを焦点化した授業でしたが、ベースボール型ゲームの特性を大切にしながら楽しさを追求するという点から、投げる、捕る、打つ、走るという要素をバランスよく取り入れられるとよいと思いました。
- 子どもがどのように課題意識をもって取り組んでいくか、ということが雰囲気によさだけではなく、スキルの向上にこれほど影響するのかと気付くことができました。子どもを大切に授業づくりを進めていくことが何より重要だと思いました。

実践事例⑩【道徳】

自分の生活を支えてくれる人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする心情を育てる授業

- 1 主題名 栄光を支えた力 2－（5）尊敬・感謝（第5学年）
- 2 資料名 悲願の金メダル（教育出版 小学どうとく 心つないで5年生）
- 3 本授業で取り入れた手立て（ページは、「指導プラン」関連ページ）

①道徳的価値の自覚を深めるための発問構成の工夫

- ・中心発問及び前後の発問構成を工夫することにより、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができるようにした。

（「児童生徒の心を動かし、多様な考えを引き出すために」P.122）

- ・中心発問について考える場面では、少人数によるグループでの話し合い活動を取り入れ、友達の考え方に対する理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりする場面を設定した。

（「児童生徒相互が考えを伝え合い、学び合い、深め合うために」P.122）

②資料提示の工夫

- ・資料への興味・関心を高めるために、映像資料を活用した。郷土群馬で活躍するスポーツ選手を取り上げ、主人公の生き方に触れさせる中で、道徳的価値の自覚を深められるようにした。

（「想像、共感をかき立て、道徳資料の世界へ引き込むために」P.122）

- ・終末では、上野選手からのビデオメッセージを活用し、ねらいの根底にある道徳的価値を児童がより一層主体的に考えられるようにした。

（「児童生徒の心情に訴え深い感銘を与えるために」P.123）



4 本時の授業と指導のポイント

ねらい：自分の生活を支えてくれる人に感謝の気持ちを持ち、それにこたえようとする心情を育てる。

1 ねらいとする道徳的価値への方向付け。

- 上野選手のユニフォームと本人の写真を見る。

T：これは何でしょう。

S1：ユニフォーム。

S2：前にテレビで見た。

- 上野選手が活躍した北京五輪の映像を見る。

T：上野選手が頑張れた原動力は何か、考えながら映像を見ましょう。

2 中心的な資料によって、ねらいとする道徳的価値の追求・把握を行う。

- 「悲願の金メダル」を読んで話し合う。

T：ビデオや資料から上野選手のことをどう思いましたか？

S1：負けず嫌い。

S2：頑張り屋。

S3：けがをしてもソフトボールが大事。



資料提示の工夫①

- 上野選手のユニフォーム（実物）の提示や北京五輪での活躍の様子をビデオで視聴することにより、本時の主人公についての関心を高める。

○上野選手を支えた人々の気持ちについて話し合う。

T：上野選手をどんな人たちが支えたのでしょうか。

S 1：チームの仲間。

S 2：お父さん、お母さん。

T：どのように支えてくれましたか？

S 3：マウンドとネットを作ってくれた。

T：他には？

S 4：ソフトボール部の先輩。

S 5：監督。

T：こんなにたくさんの人たちに支えられているんですね。

T：だれがどんな気持ちで支えているか吹き出しに書いてみましょう。

S 2：お父さんは練習をしっかりとさせたという気持ち。

T：それに対して上野選手はどう思っていたかな？

S 3：感謝していたのではないと思う。

S 4：チームメートは自分たちが守るから安心してという気持ち。

S 6：お互いに支え合っているという気持ち。

T：それに対して上野選手はどう思っていたかな。

S 7：ありがとうという気持ちでいっぱいだった。

S 8：お守りをくれた先輩は、「世界一をとってきてね」と自分が出られないぶん、頑張っているという気持ち。

T：それに対して上野選手はどう思ったかな。

S 8：世界一をとってやるぞという気持ち。

S 9：やっぱりみんなのおかげで自分があるんだという気持ち。

○上野選手の頑張りや努力を支えたものは何だったのか話し合う。

T：上野選手の頑張りや努力を支えたものは何だったのか、ハートカードに記入して下さい。

S 1：ソフトボールへの強い思いとたくさんの応援の言葉に私も頑張らなくちゃという気持ちになった。

S 2：応援してくれる人、みんなからの励ましにこたえようとする思い。

S 3：金メダルを取りたいという強い思い。応援の力。

S 4：ソフトボールが大好きという気持ち。世界一への強い思い。

S 5：希望や喜び。

S 6：世界一になりたいという夢やそれに向かう気持ち。

T：はたしてこれだけで頑張る気持ちを支えることができたのでしょうか。多くの人へのどんな気持ちがあったから頑張れたのでしょうか？

S 7：感謝の気持ち。

S 8：大勢の人々に支えられていることに感謝しているから。



発問構成の工夫



○まず「上野選手をどんな人たちが支えたのか。」に視点を当て、多くの人に支えられていることに気付かせた。

○次に「だれがどんな気持ちで支えたのか。」に視点を当て、支えた人たちの思いに気付かせる。

○中心発問では、「上野選手の頑張りや努力を支えたものは何だったのか。」を問い、まわりの人たちに支えられたことに対する感謝の思いを引き出せるようにした。

話し合い活動の工夫



○中心発問について考える場面では、自分の考えを明確にするために、ハートカードへ記入した。

○記述を基に、少人数によるグループで自分の考えやそう考えた理由について発表し合う。

○発表の中から、上野選手の頑張りや努力を本当に支えたものは何だったのかについて話し合う。

3 ねらいとする道徳的価値に照らして自分自身を振り返る。

○自分自身の生活を振り返る。

T：最後に、自分自身を振り返りましょう。静かに目をつむって下さい。今自分を支えてくれている人を思い浮かべてみましょう。

T：あなたたちを支えている人はたくさんいます。その人たちに対してどう応えていこうと思いますか。

S10：困ったり悩んだりしたときに友達が応援してくれる。そんな友達に対してありがとうという感謝の気持ちをもっている。友達に対して、やさしく親切に接していきたい。

S11：お母さんに、いつも支えてもらっている。自分を育ててくれたお母さんに感謝したい。そして、自分でできることはしっかりとやっていきたい。



4 ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。

○上野選手から秋間小5年生へのビデオメッセージを視聴し、多くの人に支えられて今の自分があることや支えてくれる人たちへの感謝の思いに触れ、ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。

自分自身を振り返る

○ねらいとする道徳的価値について、今までの自分はどうかあったか振り返らせ、自分とのかかわりでとらえさせた。

資料提示の工夫②



○支えていただいている人々への上野選手の思いを取材し、秋間小5年生へのメッセージとして、映像で示した。
○授業を通して考えたことと上野選手の思いを照らし合わせ、ねらいとする道徳的価値に対する自分の思いや考えをまとめられるようにした。

5 授業研究会の参加者からの感想

- 価値に迫るため、中心発問を吟味し、どのタイミングで投げかけるのかということを考えさせられました。
- 授業では発問構成が参考になりました。ねらいに対してどのように構成していくか、自分の課題としてとらえることができました。
- 子どもたちの関心・意欲を高めるためには資料が重要であるということが分かりました。とくに上野選手のインタビュー資料はよかったです。
- 価値に迫るために、授業内容について協議できたことが一番よかったです。様々な考え方やとらえ方を学び、よりよい授業づくりにするための手立てを考えることができました。
- 研究会は大変充実していました。ワークショップ形式だと発言しやすく、考えを深めることもできます。他の班の意見も大変参考になりました。運営についても、「振り返る」時間が十分に確保されていたので大変よかったですと思います。



実践事例⑪【外国語活動】

交流を通して、“新しいことを知る喜びやコミュニケーションの大切さ”に気付く授業

1 単元名 「行ってみたい国を紹介し合おう」(第6学年) (“Hi, friends! 2” Lesson 5)

2 本授業で取り入れた手立て (ページは、「指導プラン」関連ページ)

①伝えたい思いやこだわりをもたせ、表現させるための工夫

- ・前時のモデル提示から本時のペアでの最終確認までの段階的な活動を設定した。
- ・児童に表現と表現方法、内容の選択の機会を与えた。
- ・「総合的な学習の時間」で得た様々な情報の中から、外国語活動の交流の中で伝えたい情報を抽出させた。

(「単元の後半で、コミュニケーションの場を設定しましょう」P.118)



②本時のねらいに即した振り返りをさせるための工夫

- ・児童の実態をもとに、交流活動の場面で児童が具体的に意識するポイントを提示した。
- ・児童一人一人が目標を設定し、その目標を意識してペア練習と交流を行った。
- ・児童が互いに振り返りの言葉を伝え合い、気付きを深めた。

(「コミュニケーション能力を育成するために」P.119)

3 単元の目標

行きたい国やその理由を伝え合うコミュニケーション活動を通して、児童一人一人が思いやこだわりを伝え合い、新しいことを知る喜びやコミュニケーションの大切さを味わうことができる。

4 指導計画 (全5時間)

過程 (時間)	主な学習活動
継続的な活動	<p>【4月からの継続的な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○廊下等に、諸外国の風景や建物のポスターを掲示する。 ○世界地図を活用し、国さがしをする。 <p>【本単元で毎時間行う活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界のあいさつで交流する。 ○本時のめあてをもとに、児童が活動の目標を設定する。
興味づける	<p>第1時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○英語での国の表し方を知り、日本語との音の違いや英語での国名に慣れ親しむ。 ・国旗クイズ (Hi, friends!2 p.19 Let's listen①等) ○様々なゲームを通して、行ってみたい国を伝え合う英語表現 (I want to~など) に慣れる。
慣れ親しませる	<p>第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な活動を通して、行ってみたい国やその理由を伝え合う英語表現に慣れ親しむ。 ・じゃんけんゲーム、カードゲーム
	<p>第3時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Who am I? What's country?ゲーム ・Why、Because かるたゲーム ・インタビュー ゲーム
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○行ってみたい国やその理由を尋ねたり答えたりする英語表現を復習する。 ・Activity (Hi, friends!2 p.21)

他教科等との関連を図る工夫
単元のゴールを見通す計画性

- 担任が他の学習の成果物も掲示するなど計画的に行う。
- いろいろな国のあいさつを各時間の冒頭で紹介し、第5時の活動への意欲付けを図る。

言語の違いを生かした工夫

- ALTが国名や名所、料理の名前など発音し、英語の読み方との違いに気付かせる。
- 例) 「イタリア」 - Italy
「インド」 - India など



各児童が工夫した
「行ってみたい国カード」

第4時

- ・「行ってみたい国カード」を使って、ペアで交互に行ってみよう国とその理由を伝え合う。
- ・「3つのポイント」をもとに、次時の活動の目標を設定し、ペアで練習を行った後に互いに助言し合う。

【コミュニケーションを楽しむための3つのポイント】

- ①「ジェスチャー」で分かりやすく伝えよう
- ②伝えたいところは「はっきり」伝えよう Clear voice!
- ③心をこめてほめ言葉を言おう Magic words
- ④<チャレンジ!>英語のひびきで伝えよう

第5時（本時）

- ・ペアで交流に必要な英語表現や児童各自が自分の設定した目標を互いに確認し合う。
- ・自作の「行ってみたい国カード」を使って、行ってみたい国やその理由を伝え合う活動をする。
- ・活動後に感想を言いながら、「この国おススメカード」を、伝え合った友達に渡す。



- ・活動を振り返り、気付いたこと等を伝え合う。

第5時の「交流」の準備
(レディネスづくり)を行う

- 事前に児童各自が目標を設定し、ペアで練習を重ねる。
- 担任とALTの役割を明確にして児童への支援を行う。



2つの「交流」の時間の確保

- 「コミュニケーション活動」
- 活動の感想や気付いたことをグループで伝え合い、「気付き」を深める「振り返り」の時間

5 本時の授業と指導のポイント (5/5)

ねらい：行ってみたい国について、相手の気持ちを考え、伝え方を工夫しながら、自分の思いやこだわりを伝え合うことができる。

本時の流れ (※T=担任、S=児童を表す)

-Greeting-

1 友達とイタリア語を取り入れたあいさつをする。

A L T : Let's start today's warming-up!

T : 今日はイタリア語で、"Buon jorno!"

-Model Presentation & Practice-

2 行ってみたい国を伝え合う活動の流れを確認する。

○前時に紹介した活動のモデルを再提示し、担任が設定したコミュニケーションを図る上でのポイントを復習した。

T : 何か覚えているかな。

S : Clear voice!

T : そうだね。こだわっているところをはっきり言いましょよう。他には？

S : ジェスチャー、相手をほめる…

A L T : Thank you. Very good!

T : Magic words (ほめ言葉) を使いましょう。英語の音で自分の選んだ国名を言うことにもチャレンジしてみましょう。



活動を下支えする担任の役割

- よさを認め合う集団づくり
- 他教科の学習との関連付け
- 児童各自の実態や課題に応じた活動の設定や練習中の声かけ

活動のねらいへの
児童の意識付け

- 「笑顔で楽しく行うこと」自体を目標化せず、英語を用いたコミュニケーションにおける具体的な姿を意識させる。

T : 先生たちがやってみます。ポイントがきちんとできていたか、対話が終わった後にとりの友達と確認してみてください。

A : Where do you want to go?
B : I want to go to China.
A : Why?
B : Because I want to see pandas. They are very cute.
A : Oh, cute!
B : I want to eat Chinese dumplings. It's delicious.
A : Good!
B : I want to practice Taichi at Tiananmen Square. It's famous.
A : That's great!
B : Thank you. (「この国おすすめカード」を渡す) Here you are.
A : Thank you. (聞いた感想を言う。)

T : ポイントをもとに、みなさんも事前にこれから行う活動の目標を作りましたね。もう一度友達と確認してみましょう。

S : 相手の目を見て、分かたらうなずいてあげる。

S : (big, tall, cute 等の)「様子を表す言葉」をゆっくり言う。

S : すごいと思ったことは、ほめ言葉を英語で言いたい。 など

○児童各自の設定した目標を確認して、最後のペア練習を行った。

-Main Activity "Communication & Reflection"-

3 自作の「行ってみたい国カード」を用いて行ってみたい国やその理由を伝え合う交流活動をする。

○担任とALTは、各児童の目標の一覧表を手元に持ち、交流する相手に偏りがなく、交流する相手が見つからない児童がいないか、などの配慮もしながら、ほめたり助言をしたりした。

4 本時のまとめとして、行ってみたい国を伝え合う活動を通して感じたこと、気付いたことを共有する。

T : 思う存分伝えられましたか。友達に今日の活動でできたことや聞いていて気付いたことを伝えましょう。

ALT : OK. Let's make a group of four.

S : 会話の途中で、練習の時よりほめ言葉がうまく使えた。

S : 前の練習の時には使えなかった「様子を表す言葉」が使えたり、いろんな Magic Words で友達をほめられた。

S : 練習が大変でしたが、いろんな人と交流できて、友情が深められてすごいと思った。

モデル対話での担任の役割

○モデル対話では、「英語を使うとするモデル」として、担任の先生の役割が重要である。

思いを伝え合う活動を通して児童が学ぶこと

○児童は、①全ての単語を理解しなくても相手の気持ちは伝わること、②伝わらないときにジェスチャーや言い方の工夫が必要なことを体験的に理解する。



もう一つの「交流」場面

○活動後の振り返りをグループで共有させ、活動自体の「楽しさ」だけでなく、コミュニケーションの大切さに気付かせたい。



交流では、英語であいさつをしているうちに自然ときんちょうがほぐれていきました。このとき僕は、「やっぱり英語は不思議だな」と思いました。聞いていた人が拍手をしてくれたり、練習の時からアドバイスをもらっていた○○くんにはほめられたり、ふり返っているときには、先生が「とてもよかった」と言ってくれたりしました。「やっぱり英語って他とは違う楽しさがある」と改めて思いました。

(児童の感想)

6 授業研究会の参加者からの感想

○他教科とのつながりのある授業を展開できるよう、単元計画を練り直したいと思います。

○思い(行ってみたい国)の伝え方の工夫について、内容の精選と伝え方の技術の二点について、深く考えることができました。児童自身の役割や工夫を生かした授業であったと思います。

○学生や小学校の先生と研究協議で意見交流ができてよかったです。小学校の外国語活動の実際の様子を見ることができ、中学校の教員として大変参考になりました。

実践事例⑫【総合的な学習の時間】

協同的な学びにより、“課題解決に向けた思考力”を高める授業

1 単元名 「お年寄りから学ぼう」(第6学年)

2 本授業で取り入れた手立て(ページは、「指導プラン」関連ページ)

①児童の思考を高めていくための活動の工夫

- ・ビフォー・アフターカードを用いて、思考の流れを視覚的に示すことで、取組の視点を明確に意識できるようにした。

②協同的な学びの工夫

- ・グループで改善点を考える際、友達や地域の方に書いてもらったアドバイスカードを通して得た意見を参考に、グループで改善策を考えられようとした。



3 単元の目標

お年寄りとの交流や課題解決に向けた調査活動を通して、人とふれあう力や思いを表現する力を身に付けるとともに、課題の解決に向け、自分たちでできることを考え、実践できるようにする。

4 指導計画(全30時間) (「1単元のつくり方」P.124)

過程(時間)	主な学習活動	
つかむ 第1時～ 第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・生き生きと活動するお年寄りと交流する。 ・体験を基に話し合い、調べてみたいことを整理して、共通課題、個別課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">共通課題A：活躍するお年寄りを紹介しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・共通課題Aをもとに、個別課題Aを設定し、活動計画を立てる。 	<p style="text-align: center;">お年寄りへの理解を深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域のサークルで活動しているお年寄りと交流して、様々な生き方にふれる。 ○お年寄りのよさにふれることで、学習対象への興味・関心が高まるようにする。
	<p>追究する 第6時～ 第9時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別課題Aについて、体験や聞き取り調査等を行う。調査結果は、キーワードや文章にまとめる。 ・グループ内で調べたことについて報告をし合い、情報を整理する。 ・まとめたことを学級全体で発表し合い、共有する。 	<p style="text-align: center;">協同的な学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習グループの中で課題を分担したり、アドバイスをし合ったりすることで、責任をもたせ、より主体的な取組を促す。
つかむ 第10時～ 第14時	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉に携わる方を招き、話を聞く。 ※生き生きと活躍している一方で、不安や悩みを抱えているお年寄りの実態があることを知る。 ・身近なお年寄りに、「不安に感じていること」「地域の課題」「子ども達に対する期待」等について聞き取り調査を行う。 ・聞き取ったことを整理して、お年寄りから見た地域の問題点、若い世代に対する願い等をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">共通課題B：お年寄りのためにみんなのできることを考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・共通課題Bをもとに、個別課題Bを設定し、活動計画を立てる。 	<p style="text-align: center;">自ら課題をもてるような単元計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の意識に「ずれ」や「隔たり」が生じるよう、単元計画の工夫を図る。 ※高齢者との交流を行った後、高齢者問題について話を聞くことで、課題意識の高揚につなげる。

追究する	第15時 ～ 第20時	<ul style="list-style-type: none"> ・個別課題Bについては、似たような考えをもつ児童同士でグループをつくり、具体的な活動計画を立てる。 ・課題について「解決すべき問題」「具体的な解決策」「取組後の様子」をビフォー・アフターカードに記入する。 ・中間報告会において、グループ毎に活動計画を発表し、意見交換を行うとともに、参観者から改善点をアドバイスカードに記入してもらう。
まとめる	第21時 ～ 第30時	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画を見直し、ビフォー・アフターカードを修正する。（「授業充実のためのコツやアイデア」P.127） ・見直した活動計画をもとに、お年寄りと交流を図り、課題について考えを深めていく。 ・お年寄りとの交流から学んだことを自己の生き方に結びつけ、まとめる。

**学習を質的に高めるための
中間発表会の工夫**

- 取材で係わった高齢者福祉に携わる方や地域のサークルの方、保護者や他のグループの児童からのアドバイスを取り入れることで、取組の改善点に気付かせる。
- 様々な人からアドバイスカードを記入してもらうことで、次の活動への意欲につないでいく。

5 本時の授業と指導のポイント (21 / 30)

ねらい：中間発表で指摘されたアドバイスを活用して、お年寄りの問題について、自分たちにできる解決策を見直し、よりよい企画を考えることができる。

本時の流れ

1 本時の活動のねらいを確かめる。

< 課 題 >

お年寄りを悩ます問題について、自分たちにできることを見直そう。

2 前時の中間発表の際に書いてもらったアドバイスカード（付箋）を内容ごとに分類し、整理・分析する。（グループ）

- 他の班の児童と保護者、地域の方に書いてもらったアドバイスカートを、KJ法を用いて分類する。



3 アドバイスカードをもとに、解決策について改善すべき点を話し合う。

- 解決策については、見直しの視点に沿って再考できるよう助言する。

※「見直しの視点」

- ・自分達にできる内容になっているか。
- ・問題点はないか。
- ・更に良い方法はあるか。
- ・お年寄りにとって無理のないものか。
- ・他に調べておくことはないか。
- ・「協力をお願いする人」は適切か。
- ・「準備するもの」で不足はないか。

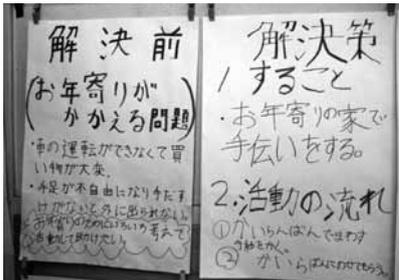


**意図的支援の充実を図る
ために**

- 前時に記入してもらったアドバイスカードは、教師が事前に内容を把握し、各グループに対する支援のポイントを明確にしておく。

児童の思考を促すために

- 課題に対する事前と事後の様子を書き入れることで、活動の方向性を明確に意識できるようにする。
- 見直しの際は、改善した部分を赤ペンで書き加えさせることにより、修正点が具体的に分かるようにする。



解決前
(お年寄りが) かかえる問題
・車の運転がでなくて買物が大変。
・お年寄りが自由に行動できず、お年寄りに必要なものを自分で買わなければならない。
・お年寄りの生活が楽になるようにしたい。

解決策
1. すること
・お年寄りの家で手伝いをする。
2. 活動の流れ
① 1人1人で仕事を分担する。
② かいり、はたき、掃除機

<ビフォー・アフターカード>※A3色上質紙4～5枚

解決前	解決策	解決後
「お年寄りが抱える問題」	1 すること 2 活動の流れ 3 準備	「目指すお年寄りの姿」
考えたこと		

4 改善した部分を発表し合う。

○各班の良さを指摘し、次の活動への意欲付けとなるようにする。
また、改善の方向性について学級全体で共有する。

《1班「一緒に楽しもう」》

○お年寄りのことを考えた活動内容とする。

T：お年寄りのことを考えるためにどんな活動を加えましたか。

S：アンケートをとって、お年寄りの希望を聞こうと思います。

《2班「友達をつくろう」》

○交流の場の設け方について考えた。

T：どんな交流をするか考えられましたか。

S：一緒に小物入れの飾り付けをした後、発表会をして、そのときに自己紹介をしようと思います。

《3班「困っていることを解決しよう」》

○目的、対象、内容をはっきりさせるよう考えた。

T：交流相手がいないお年寄りと遊ぶことにしたのですね。何人ぐらいのお年寄りを対象に考えていますか。

S：対象とするお年寄りは、20人以下としました。

T：実現可能な内容にしたんだね。

《4班「手伝いをしよう」》

○自分達でできることを明確にするよう考えた。

T：「何を手伝ってもらえるか分からない」という意見があります。

S：回覧版で知らせる内容を分かりやすくしようと思います。

《5班「募金・寄付をしよう」》

○募金活動の進め方や意義について考えた。

T：みんなに協力してもらうため、どんな工夫が考えられますか。

S：募金のスローガンを考えることにしました。

5 本時の学習を振り返る。

○「感じたこと・考えたこと」「これから頑張りたいこと」を書かせ、次の活動への見通しや意欲をもたせる。

考えを明確にするために

- 班での協議内容を全体で発表することで、改善の視点や活動内容を再確認させる。
- 安易な見直しとならないよう、どのような助言を受け、どう改善したか、思考の道筋が分かるような発表とする。



変容を自覚させるために

- 自己の成長や変容を自覚できるよう、振り返りはポートフォリオとして蓄積する。
- 活動履歴を廊下に掲示することで他の班の活動内容についても、共有できるようにする。



6 授業研究会の参加者からの感想

- 単元全体をとおして目標が貫かれ、1時間1時間の活動の意義が明確になっていると感じました。
- ビフォー・アフターカードを活用したことで、活動のスタートとゴールが明確になり、児童は思考の視点がずれることなく協議を進めることができていると思います。
- 地域の特性を生かした単元づくりがなされていて大変参考になりました。見通しをもって計画的に授業を進めることで、より効果的な総合的な学習の時間になるということを再認識しました。
- 子どもたちだけでなく、地域の方や保護者のアドバイスを活用して、活動の改善を図ったことは、学びを深める上で大変有効であったと思います。

実践事例⑬【学級活動】

児童が意見を出し合い、異なる意見に耳を傾け、折り合いをつけて集団決定する話合いの授業

1 議題 「みんなで声をかけ合って楽しく過ごすための掲示板を作ろう」(第3学年)

2 本授業で取り入れた手立て(ページは、「指導プラン」関連ページ)

○よさを認め合い、折り合いをつけて集団決定する工夫

・事前に考えさせた掲示板のイラストを活用し、よさに着目しながら話し合わせた。

(「児童生徒を鍛える教師のかかわり」P.129)

・司会が安易に多数決で決定しないように、修正案を生み出させる支援をした。

(「集団決定の仕方」P.129)



3 事前の活動 (「1単元のつくり方」P.128)

過程(時間)	児童の活動
	○計画委員会(司会、書記、お手伝い係)の活動
朝の会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題の発見</div> <ul style="list-style-type: none"> ・議題箱への提案をクラスに呼びかけた。
15分 休み	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">議題の選定と決定</div> <ul style="list-style-type: none"> ・提案された議題を整理し、選定した。 ・「休み時間の過ごし方」にかかるアンケートを作成し、実施した。 ・アンケート結果を加味しながら議題を決定した。
昼休み	
昼休み 放課後	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動計画の作成</div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の考えを把握し、話合いの台詞や仕事分担を教師と打合せを行った。
帰りの会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">問題の意識化</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学級に議題や提案理由を知らせた。
	○学級全員の活動
学級の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回答
朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく過ごせる工夫について考えた。
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動ノートに議題について考えをまとめた。

議題箱の扱い方にかかる 日常的な指導

○議題箱には、個人的なことではなく、学級全員で話し合うべきことを入れるように指導する。



計画委員の主体的な活動を支援

○提案された議題をよく吟味し、学級の実態、学級経営の充実の観点から選定の準備をする。
○学級の実態や課題意識を把握するためにアンケートを実施することなどを提案する。

本時へ向けた準備

○話し合うことを絞り、時間配分を考えさせる。
○授業で使うものは計画委員に作らせる。



学級全体への指導

○具体的な生活場面を思い浮かべられるように補足説明する。
○事前に家族や上級生等から、議題についてアドバイスをもらうこともすすめる。

4 本時の授業と指導のポイント

ねらい：「みんなで声をかけ合って楽しく過ごすための掲示板」の内容や工夫を話し合って決める。

過程 (時間)	話し合い活動（学級会） ※進行は計画委員
導 入	<p>1 議題の提案理由・めあての確認</p> <p>＜提案理由＞ クラスに掲示板を作って、休み時間にお互いに声をかけあって遊べるようにすれば、さみしそうな子やつまらなさそうな子がいなくなると思っ提案しました。</p> <p>＜めあて＞ おたがいがクラスの子を気づかおう。</p> <p>○議題箱に提案した児童が教室の前に出て、理由を発表した。 ○計画委員（司会）のリードで、めあてを全員で読み上げた。</p>
	<p>2 話し合い【集団討議】</p> <p>意見を出し合う場面</p> <p>○事前に学級活動ノートに記入しておいた各自の考えを発表した。</p> <p>＜掲示板についての自分の意見＞ S 1：私は、掲示板にいつどこで何をして遊びたいか書いて、遊びたい子はその掲示板にネームカードを貼ればよいと思います。 S 2：だれといっしょに遊んでよいか迷っている人が、だれと遊べばよいかすぐわかるから、掲示板を作ることはよいと思います。</p> <p>○クラスの友だちが事前に考えた掲示板の具体的なイメージをイラストで発表した。</p> <p>＜掲示板の具体的なイメージ＞ S 1：いつどこで何をすることがわかりやすくなっている掲示板 S 2：明日、明後日の分まで予定表になっている掲示板 S 3：クラス全員23人で遊べる掲示板 S 4：色々な種類の遊びを貼れる掲示板</p> <p>比べ合う場面</p> <p>①「23人全員で遊べる掲示板」 ②「自分が入りたいものに入って遊べる掲示板」</p> <p>S 1：人と遊びたいものが違う時もあるから、②がよいです。 S 2：②の掲示板だと、全員が分かれてしまうから①がよいです。 S 3：人と人とは違うので、自分の好きな遊びのできる②がよいです。 S 4：23人全員で遊べば、遊び場も1つしか使わないからよいと思います。 S 5：①で決まった遊びができない人がいるかもしれないので、色々な遊びの入っている②の方がよいです。</p>

本
時
の
活
動
展
開

計画委員の運営

○計画委員は輪番制とし全員が経験できるようにする。



導入における教師の話

○提案理由について改めて確認し、問題の意識化を図る。
○話し合い活動中は、常にめあてに立ち戻ることもあわせて確認する。

出し合う場面における教師支援

○短冊を活用するなど、出し合う場面に多く時間を取らず、比べ合う場面を大切にする。



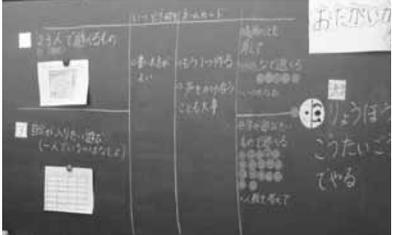
教材の工夫

○具体的なイメージをもたせるために内容に応じてICTを活用するなど、教材を工夫する。



比べる視点の明確化

○どうしたら比べやすくなるかを考え、それぞれの意見・理由を類型化する。



本 時 の 活 動	3 意見の統合【集団決定】
	<p>折り合う場面</p> <p>○両方のよいところを生かした考えを出し合った。</p> <p>S 1：①は月曜日、②は火曜日という風に交代でやったらよいと思います。</p> <p>S 2：①は昼休み、②は15分休み、これを週替わりでやればよいと思います。</p> <p>○計画委員がクラス全体の前で、話し合いで決まったことを確認した。</p> <p>―――<決まったこと>―――</p> <p>掲示板①と掲示板②を交代で使う。</p> <p>振り返りの場面</p> <p>○本時の話し合いについて、ワークシートで自己評価した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の意見を十分に聞き、拍手ができたか。 理由をつけるなどして自分の意見がしっかり言えたか。 みんなの気持ちが一つになれるような話し合いができたか。

折り合う場面における教師支援

- それぞれのよさに着目した意見の中から話し合いのめあてや提案理由に沿ったものを絞っていく。
- 安易に多数決で決定させないように司会に修正案を生み出させる支援をする。

集団決定の仕方

(例) 意見① 意見②

※折り合い

①②両方を生かした意見

- 「自分もよくてみんなもよい」集団決定になっているか確認する。
- 1度決まった決定事項を全員で実践していくことを確認する。



5 事後の活動 (「1単元のつくり方」P.128)

過程(時間)	児童の活動
事 後 の 活 動	○全員の活動
	<p>○クラス全員で話し合って、掲示板の名前をつけた。</p> <p>―――<掲示板の名前>―――</p> <p>どこでもみんなでなかよく遊ぼうよけいじ板</p> <p>○折り合いをつけながら遊びの内容を決めている。</p> <p>○無理に掲示板に縛られることはないが、約束したことが守れない時は、相手にきちんと伝えることが確認された。</p> <p>○もめごとが起きた時、折り合いを上手につけて自分たちで解決しようとしている。</p>

事後の実践活動にかかる日常的な指導

- 新たな課題が出たときに、話し合いをもち解決する。
- 実践を評価し、もっとよくするための課題を考えさせる。



6 授業研究会の参加者からの感想

- 意見の言い方、折り合いのつけ方、司会者の進め方等、普段の国語等の学習の参考にしていきたいです。
- 小学校3年生でも4月からの積み重ねで、本時のような話し合い活動ができるのだと感心し、学級経営の仕方次第で、児童はどんどん力を伸ばすことができることを痛感しました。
- 事前の準備から児童を巻き込んで意識を高めた話し合い活動を実践し、児童に充実感・満足感をもたせたいです。
- 話の聞き方や意見発表の仕方、ねらいに迫る話し合いは、すべての教科に通ずると思われるので、多くの場面で意識させたいです。
- 学級活動の話し合いをするために、本時だけに目が行きがちだが、事前・事後の活動の大切さをあらためて感じた。年間指導計画に基づき、計画的に実践していくことが大切だと思いました。

「基礎・基本習得のための実践研究事業」関係者、関係機関

【基礎・基本習得プロジェクト会議 委員】

江 森 英 世	群馬大学教育学部教授（附属小学校長）
三 田 純 義	群馬大学教育学部教授（附属中学校長）
尾 崎 亨 子	みどり市教育委員会教育長（県都市教育長協議会代表）
鎚 田 範 雄	明和町教育委員会教育長（県町村教育長会代表）
中 島 千恵美	高崎市立南小学校長（県小学校長会長）
立 見 康 彦	前橋市立箱田中学校長（県中学校長会長）
木 村 雅 治	県総合教育センター所長
木 村 淳 一	東部教育事務所長（教育事務所長会代表）
須 永 光 明	県教育委員会学校人事課長
福 田 弘 二	県教育委員会特別支援教育室長
林 康 宏	県教育委員会スポーツ健康課長
堀 澤 勝	県教育委員会義務教育課長

【学 校】

前橋市立広瀬小学校
前橋市立勝山小学校
伊勢崎市立広瀬小学校
渋川市立渋川北小学校
高崎市立金古小学校
藤岡市立神流小学校
富岡市立吉田小学校
安中市立秋間小学校
中之条町立沢田小学校
川場村立川場小学校
館林市立第九小学校
みどり市立大間々北小学校
邑楽町立長柄小学校

【市町村教育委員会】

前橋市教育委員会
伊勢崎市教育委員会
渋川市教育委員会
高崎市教育委員会
藤岡市教育委員会
富岡市教育委員会
安中市教育委員会
中之条町教育委員会
川場村教育委員会
館林市教育委員会
みどり市教育委員会
邑楽町教育委員会

【群馬県教育委員会】

義務教育課
スポーツ健康課
中部教育事務所
西部教育事務所
吾妻教育事務所
利根教育事務所
東部教育事務所
総合教育センター

平成24年度

「基礎・基本習得のための実践研究事業」

はばたく群馬の指導プラン
実践事例集《小学校編》

平成25年3月発行

発行者：群馬県教育委員会 義務教育課
群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁23階
電 話：027-226-4615
印刷所：株式会社ジェイエイプリテック

